

Japan Civil Engineering Consultants Association

JCCA

ゲームインちゅうぶ
四夢in中部

2012 Vol. 29

今号のみどころ

..... 特集

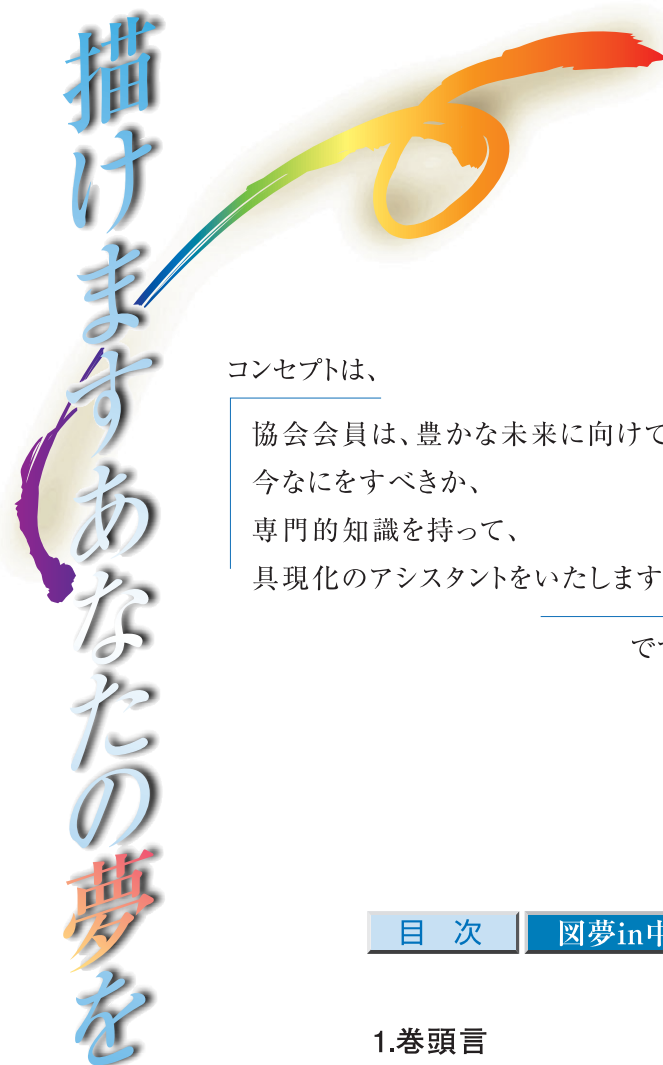
NPO

「知多から世界へ」

講演会 in セントレア

平成24年8月28日(火)午後2時より





コンセプトは、

協会会員は、豊かな未来に向けて
今なにをすべきか、
専門的知識を持って、
具現化のアシスタントをいたします

です。

目次

図夢in中部 Vol.29

1.巻頭言

副支部長 ————— 1

2.特集

NPO「知多から世界へ」 ————— 2

3.業務技術発表

優 秀 賞 ————— 10

優 秀 賞 ————— 14

4.投稿

仕事をするうえで大切なこと ————— 18

親として思う土木行政について ————— 19

空間情報総括監理技術者による「スペシャリストの会」に刺激を受けて
設計経験を重ねながら ————— 20

公共事業が毎日の安全な暮らしを守っていることを知ってほしい
マニュアルには載っていない防災技術 ————— 21

5.クリックコーナー

コンサルタント川柳 ————— 22

6.協会活動紹介 ————— 24

7.会員名簿一覧表 ————— 38

8.事務局だより ————— 40

9.編集後記 ————— 42

1. 巻頭言



巻 頭 言

今年度より建設コンサルタンツ中部支部の副支部長の大役を仰せつかりました。これまで4年間、情報部会長として会員皆様へはもとより、一般の方々へも分かりやすく情報提供ができるように中部支部ホームページの更新や本部との協働による講習会を開催し、少なからずお役に立てたと思っています。

我々、建設コンサルタンツを取り巻く環境は、東日本大震災以降、大きく様変わりしようとしています。「災害に強い国土づくり」があらためて重要な課題として取り上げられています。H17-19において緊急輸送ルート確保のために既設橋梁について3カ年プログラムによる耐震補強が集中的に実施されましたが、これからは、今後起こると予測されている巨大地震のほか異常気象による自然災害などに対する防災対策のため、道路、港湾、上下水道などのインフラ整備が一気に加速するような気配を感じます。また、この3月末には内閣府の有識者会議からM9級の巨大地震により、東海地方でも20mを超える巨大津波の想定される個所が広範囲に亘ることが突然発表され、これらの対応も早急に講じなければなりません。

これまで、コンサルタンツ業界は、平成元年に答申されたATI構想において、目指すべき将来像として「魅力に満ち (Attractive)、技術を競う (Technologically spirited)、独立した (Independen) 知的産業」が掲げられ、発注者の良きパートナーとして活動してきました。それから20年余り過ぎた今(その間、公共投資の縮減、入札制度改革など業界を取り巻く環境が大きく様変わりして)、一番の危機は、建設コンサルタン

サルタントに向けて」の取り組みではないでしょうか。この間の売上はピーク時のH11：9,800億円からH21：6,860億円へ、技術者数も47,600人から37,000人へと大きく減少しています(平成23年度建設コンサルタンツ白書より)。

これからの社会資本整備に貢献するためには、業界自体の耐力(技術力)を高め、魅力ある業界となり、我々業界を背負う若い技術者、優良人材の確保のためにも、一般の方への建設コンサルタントの役割の理解、知名・認識度の向上を図らなければなりません。そのためには、今年度の中部支部事業活動方針に掲げられた①品質向上推進、②技術研究・交流及び技術支援を始めとした7つの活動に邁進していかなければなりません。

近未来・中未来の中部圏の交通網整備に目を向けると、この4月に新東名高速の三ヶ日JCTまで開通し、2年後には豊田東JCTまで開通、名古屋環状2号線はその5年後に、そしてその数年後には東海環状西回りが供用し中部圏の道路網が整備され一区切りします。さらに15年後の2027年にはリニア中央新幹線が開通しています。そのころには我々の業界も若い技術者が増え、平均年齢も今と変わらぬ45歳前後を維持し、活力と魅力ある業界になっています(なっていないかもしれません)。今年、入社された方は、中堅技術者として活躍し、現在、中堅として活躍されている方は、経営層となり、会社を背負っておられることと思います。

この四月から中部支部は新しい事務所に移りました。心機一転、これまで以上に支部発展のために積極的に活動していきますので、会員皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

NPO「知多から世界へ」

NPO知多から世界へ

副理事長 いそが い 磯貝 とおる 徹



2005年2月17日中部国際空港が開港し、連日10万人近くの人々が訪れるなど、空港は、大いに盛り上がりしました。こういう熱気あふれる雰囲気が続いている時に、加藤先生（元岐阜大学学部長）の教え子たちが、中部国際空港で、先生のお話が、聞きたいということになり、一方、知多半島の歴史や文化をもっと広めたいという願望を持った仲間もあり、一緒になって講演会を開くことになりました。講師は、加藤先生、榊原前半田市長、齊藤前美浜町長に引き受けていただき、加藤先生は、「中部国際空港は、なぜ常滑沖に決まったか」であり、中部国際空港の立地選定に当たり、四日市沖、鍋田沖、常滑沖、三河湾の4箇所から、平成の始めに、当時の中部空港調査会で最終的に今ある常滑沖に決められたことを語っていただきました。榊原前半田市長は、全国の地方公共団体の首長さんの中で、唯一、若い頃、自作のヨットで世界一周した、勇気のある方で、「船頭重吉と知多半島」について語っていただきました。齊藤前美浜町長は、20年以上にわたり、150年以上前にシンガポールで活躍した美浜町出身の音吉の足跡探しに尽力され、その努力が評価され、2009年5月シンガポール政府が、「日本とシンガポールの交流の始まりは、第二次世界大戦からでなく、音吉がシンガポール定住した時代に遡る」ことを表明する程にシンガポール共和国の対日国策を変える貢献をされた方で、「セントレアから音吉の足跡」を語っていただきました。

講演会は、2005年10月27日セントレアの会議室で、主催は、「知多から世界へ」講演会inセントレア実行委員会でした。

この講演会は、好評で、あらためて知多半島が歴史的にも海に開かれた地域であり、また新たに世界に開かれた地域になったことを、参加者は、理解することができました。

開催前後から、講演会を続けたらどうかという声が出てまいりまして、資金もなく、人手も少なく、それでも知多地域の首長さんはじめ多くの方々から、熱心に応援していただき、東京からも故山本雄二郎先生にご出席いただき、盛り上がりましたので、これから継続することになりました。これが現在の講演会活動の始まりです。

1 講演会誕生の背景 —知多地域の風土—

今から10年ほど前、知多地域の人から「情熱の気風」という本を勧められ、この地域の先人たちの努力と優れた業績を教えられました。そもそも、この本を作るきっかけは、鈴木東海市長さんですよという話が、当時愛知県知多事務所の青木所長さんからうかがいました。さっそく市長さんにお会して、この本を書かれた故二宮隆之氏のお話や「情熱の気風」の生まれた背景をお話いただきました。その中で「知多半島には、優れた先人がみえ、これを皆さんに知っていただくことが出来ればいいですね」という言葉が印象に残りました。

ということで、第2回目は、鈴木東海市長に「市長が語る細井平洲」を、竹内鈴溪資料館館長に「鈴溪義塾」を演題にして、知多地域の先人の業績や遺徳などを語っていただき、今なお毎日の生活の中に生きており、活用されていることを知りました。文字通り「情熱の気風」の再現であり、講演会の出席者は、大変感

銘を受けられました。

一方、支援についても、資金面で常滑商工会議所の当時の井上専務さんはじめ心ある団体などにバックアップしていただき、講演用の資料の印刷代に当てたりしました。チラシの作成、会場の雰囲気盛り上げる花も知多ソフィアネットワークの山本勝子先生にご用意していただき、5市5町の職員の方々には、チラシの配布、会場の準備などをしていただきました。ロゴマークは、名古屋市立大学の森句子先生に制作していただきました。

先生は、知多半島を回り、私どもの気持ちを良く理解して、熱い想いで制作していただきました。NPOのスピリットを明快に、表しております。知多地域5市5町が、地球を囲むように10の丸で表現され、デザインが、「C」をイメージして、知多であり、セントラル ジャパン(中部圏)、セントラルジャ



パン インターナショナル エアポート(中部国際空港)を想像できます。10の都市が、一体となって、世界と交流を深めるイメージであります。実に明るく、伸び伸びとした気持ちになります。私どもNPO・知多地域の大切なアイデンティティを表しております。私どもNPO・知多地域の目指す方向を表しております。このロゴマークは、地域に、関係者に次第に広がり、定着してきております。森先生に、感謝いたします。

ほとんどボランティアの活動で、実に多くの方々に気持ちの良いご協力をしていただき、この講演会活動を支えていただいております。



2 NPOの誕生とそのねらい -日本の空港問題の原点・成田空港-

故山本雄二郎先生が、常滑に出かけられるようになって、およそ20年以上たちます。山本先生は、田原市渥美町のご出身で、国の航空審議会委員をはじめ、要職をこなしてみえましたが、愛知県では、その存在感は、薄い方でした。先生は、平成の始め頃から、愛知県が、中部新国際空港について国をはじめ関係機関と接触するにあたり、手取り足取り、取り組み方を教えていただき、中部国際空港の生みの親の一人であり、恩人であります。運輸省の成田開港時の航空局長 高橋寿夫氏が「山本先生が、みえなければ、現在の成田空港の繁栄はない」と折々語ってみえます。地域と空港の何十年にわたる混沌とした関係を「共生」できる状態に修復し、今では、さらに「共存共栄」の関係にまで育てあげられた方です。この深刻な課題の解決のために、およそ40年以上にわたり成田空港で活躍され、行政と地域の反対グループとの間に立ち、その和解にむけて献身的にご尽力された方であります。20年以上前に先生が、常滑に入られたのは、二度と同じようなことが興らないことを願ってのことでした。今にしてわかりました。



故山本雄二郎氏

第2回の講演会は、当時中部運輸局の谷山将局長の勧めで山本雄二郎先生にお願いしました。先生は、「新しい共生の考え方について」講演していただき、この中で「コンビビリティ」という聴きなれない言葉もちいられて、地域と空港が、お互いの考え方は、違うかも知れないが、とにかく一緒になってやろうという取り組み方を提案されました。中部国際空港を、知多から世界に発信する基地として活用し、地域が提案公募型の核というか、中心にこの講演会を発展させていけば、文字どおり「知多から世界へ」が具体化されるし、コンビビリティ的共生も実を結ぶのではないかと語ってみえます。

この考え方が、私たちの基本になりました。当時は、NPOでなく実行委員会でしたが、第2回目の講演会

終了後大阪航空局中部空港事務所の方からNPOにしたほうがいいですよと助言をいただき、NPOづくりに取り組みました。現役時代からご指導いただいていた故新美富太郎元副知事に相談したところ「知多半島全部の市長さん、町長さんが入った組織を」とのアドバイスいただきましたので、早速勇気を出して、知多半島を回りました。お話をいたしましたら、すべての市長、町長が、NPOの顧問になっていただくことを快諾していただきました。さらに中部国際空港知多地区連絡協議会も第3回から共催していただくことになり、NPOと知多地域とが一体となって活動できる土台が出来ました。また事務局は、常滑商工会議所にお願ひし、爾来、常滑商工会議所の方々、大阪航空局中部空港事務所の方々はじめ地域の多くの方々の好意に支えられ、お世話になり、深く感謝申し上げます。平成18年10月2日特定非営利活動法人「知多から世界へ」は、誕生しました。

3 講演会・交流会が地域に与えたもの

平成19年2月9日第4回講演会が、NPOの主催として始めて開催されました。成田国際空港(株)代表取締役黒野匡彦社長が、「国際拠点空港を巡る最近の動き～中部国際空港の関連において～」という演題で、完全民営化、完全空港化、仁川空港の戦略などについて日々厳しい取り組みをしていることを語っていただき、成田空港を巡る環境の厳しさを知ることが出来ました。以後14回まで多くの講師に語っていただきました。(今までの講演会 in セントレア 参照)

講師の方々は、気持ちのこもったご講演をしていただいております。熱心に一番伝えたいことを語っていただいております。講師の方々は、表にありますように多方面にわたっております。中部国際空港の計画・建設の折に様々な分野で、ご尽力いただいた方、知多地域の首長さん、重要な産業を担っている方、知多地域ご出身で全国적으로活躍されている方々、外交官などです。

専門分野を超え、地域の違いを超え、世代を超え、講師の方々は、知多地域(伊勢湾を含む)と中部国際空港におよびこれらの絆について、その現状と将来について深い関心をもっておられることとそれ以上に中部国際空港が、日本を支える優れた空港になってくださいという気持ちを抱いておられることがわかりました。それを参加者に理解していただきたいという熱い想いをもっておられます。

回を重ねるごとに、多忙な方々が、謝礼もなく、遠方からわざわざきていただき、それもわかりやすく熱心に語っていただいている姿を目の当たりにして、なぜこれほどまでに語っていただけるのか考えざるをえませんでした。

すべての講師の方々のお気持ちは、中部国際空港を日本の将来の発展を支える空港にするように努力していただきたいということです。

今までの講演会 in セントレア

開催場所

【第1回】【第3回】中部国際空港(株)管理棟1F会議室 【第2回】中部空港事務所1F 講堂
【第4回】～【第14回】中部国際空港(株)セントレアホール

開催日	演 題	講 師 (敬称略)	参加人数 (人)	講演録
第1回 H17.10.27	「中部国際空港はなぜ常滑沖に決まったか」	岐阜大学名誉教授 加藤 晃	150	VOL.1収録 売切
	「セントレアから音吉の足跡を訪ねて」	美浜町長 齋藤 宏一		
	「船頭重吉と知多半島」	半田市長 榊原 伊三		
第2回 H18.2.13	「新しい共生の考え方について」 ～地域と空港の未来に向けて～	高千穂大学客員教授 山本 雄二郎	150	
	「市長が語る細井平洲」	東海市長 鈴木 淳雄		
	「鈴溪義塾について」	鈴溪資料館館長 竹内 宗治		

第3回 H18.8.24	「セントレア・知多・イノベーション」	国土交通省 大臣官房総括審議官 小澤 敬市	180	
	「愛知用水と知多について」	知多市長 加藤 功		
	「人の住める町～私の行政経験から～」	東浦町長 井村 徳光		
第4回 H19.2.9	「国際拠点空港を巡る最近の動き ～中部国際空港との関連において～」	成田国際空港(株)代表取締役社長 (元運輸省事務次官) 黒野 匡彦	290	VOL.2収録 残り僅か
	「健康都市を世界に発信」	大府市長 久野 孝保		
	「知多半島の夜明け」	阿久比町長 竹内 啓二		
第5回 H19.8.23	「航空を巡る最新の情勢」	国土交通省大阪航空局 局長 武田 洋樹	330	1部1,000円
	「武豊の原点」	武豊町長 榎山 芳輝		
	「尾州廻船 内海船の興隆」	南知多町長 沢田 壽一		
第6回 H20.2.14	「これまでのセントレア、これからのセントレア」	中部国際空港(株) 会長 平野 幸久	280	VOL.3収録 残り僅か
	「LNGチェーンについて」	東邦ガス(株)執行役員・知多製造部長 高木 健次		
第7回 H20.8.21	「ネットワーク時代の地域活性化」	(社)土木学会 会長 栢原 英郎	320	1部1,000円
	「愛知県における航空宇宙産業の歴史と今後の課題」	三菱重工業(株)特別顧問 山田 陽二		
第8回 H21.2.12	「関西国際空港と大阪湾パネルベイ ～現状と課題・今後の展望～」	(財)関西空港調査会会長兼理事長 京都大学名誉教授 吉川 和広	310	VOL.4収録 残あり
	「観光都市とこなめをめざして」	常滑市長 片岡 憲彦		
第9回 H21.8.28	「社会資本整備のあり方」	国土交通省中部地方整備局長 富田 英治	244	1部1,000円
	「美浜ちから(力)」	美浜町長 山下 治夫		
第10回 H22.1.29	「観光による地域活性化とセントレアの役割」	淑徳大学国際コミュニケーション学部 教授 廻 洋子	318	VOL.5収録 残あり
	「これからの半田の観光まちづくりの可能性」	半田市長 榊原 純夫		
第11回 H22.8.26	「なぜ海は、大切なのかなぜ大切な海を 守らなければならないのか」	東京大学名誉教授 平野 敏行	271	1部1,000円
	「外から見た知多半島」	(株)アートクリエイション代表取締役 東京芸術大学音楽学部 応用学科大学院 非常勤講師 小栗 哲家		
第12回 H23.2.10	「アメリカからみた中部」 ～ものづくりから世界へ～	米国名古屋領事館 商務領事 八木 エドワード	265	VOL.6収録 残あり
	「新美南吉の世界」 ～郷土との関わりと現代へのメッセージ～	新美南吉記念館 学芸員 遠山 光嗣		
第13回 H23.8.26	「観光立国 日本」	国土交通省観光庁 次長 武藤 浩	299	無料
	「リニア・鉄道館～夢と想い出のミュージアム～」	JR東海リニア・鉄道館 館長 金子 利治		
第14回 H24.2.2	「シンガポール：グローバル・アジア展開を支えるハブ」	シンガポール共和国大使館 一等書記官(産業) チョア イック ファ 蔡 鎰 和	311	作成中
	「伊勢神宮の式年遷宮と篠島」	南知多町長 石黒 和彦		

表にありますように、講師の方々のこのようなお気持ちは、原稿を作られる時の講師の想い、その演題を、そのお話振りを思い返しますと痛切に感じます。

講演会・交流会を重ねるごとに、全国の空港・地域開発にかかる情報・知識・経験などが地域に蓄積されています。この蓄積された英知を、地域の方々と大切に活用して、知多地域（伊勢湾を含む）と中部国際空港の将来を考え、ひとつ、ひとつ可能と思われることから取り組んでいきます。この英知を省みながら、次の世代に恥ずかしくない中部国際空港を、日本の将来の発展を支える空港が実現できるように努力してまいります。

講師ばかりでなく、交通費を、有料道路の料金を、駐車料金を支払ってまできていただける参加者も、講演会・交流会活動のファンであります。毎回ホールは、定員の約300名ほどになります。行政関係者、知多地域の経済界はじめ諸団体の関係者、一般市民の方々及び空港関係者などで、今では、リピーターの方もみえるようになりました。

先回も、雪が降っても申し込みされた方々は、ほぼ予定通り、出席され、傾聴していただいております。参加される方々にも日本の将来の発展を支える空港にしたい想いがあります。

また、講演会後の交流会を隣の会議室で毎回講師を囲みながら、立食パーティを開いております。さわやかな、心の通う交流会です。これも講演会を盛り上げ、情報をまさに知多から世界へ発信する場になっております。

この講演会・交流会で得られた成果を、山本雄二郎先生が、語っておられた「コンビビアリティ」の心で広く地域に広げていくことに考えております。

4 世界の人の流れ

国連が、2011年10月31日、世界の人口が、70億人を超えたと発表しました。

1959年に30億人あった。今世紀末には、100億人を超えるという。

世界の航空旅客は、現在、約50億人といわれ、これも益々増えると予想されています。

国土交通省観光庁が、海外からのお客さんを増やしましょうと提唱しております。現在年間900万人、10年後には2000万人、さらに将来は、3000万人に想定されています。これを空港利用者に見直しますと日本に到着して、また日本から帰りますのでそれぞれの数値は、倍になります。

日本に来る観光客は、海外の国と比べればはるかに少ない状況です。フランスでは、国の人口を上回る観光客が来ております。アメリカでもスペインでも約6千万人近くの観光客が来ております。足元ばかり見て「採算が合う、合わない」の議論以前に世界に開かれた日本の空の玄関を築くことが、将来の日本にとって限りなく大切なことであります。

国際交流は、日本が生きていく上に欠かすことの出来ない大切な活動です。日本の自然を、歴史を、文化を、日常生活を海外にPRし、海外から人が積極的に来ていただき、日本を理解していただくことは、大切なことであります。新たな日本の開国が求められるように思います。

ボーイング787が、大量に生産されていることからわかるように、これから世界の航空需要は、大いに伸びるといわれております。今後およそ20年間、毎年の伸び率は、世界平均4%ぐらいといわれております。20年も経たないうちに、成田も羽田もパンクすると予想されます。21世紀には、さらに開かれた日本にするために中部国際空港の果たす役割は、日本の将来の発展のためにさらに大切なものになります。

5 中部国際空港の原点

(1) なぜ中部国際空港は造られたのか？

中部国際空港の計画作りは、地域では、シンガポールのチャンギ空港をモデルにしてきました。シンガポール政府は、オランダのスキポール空港をモデルにチャンギ空港を造ったといわれています。九州ぐらいの国が、ドイツ・イギリス・フランスに囲まれて将来にわたって生きていくために、空港を整備しなければならないという考えの基にスキポール空港は造られ、その役割を果たしています。チャンギ空港もタイ・マレーシア・インドネシアに囲まれ、その中で国が生きていくために造られ、驚異的な成長を遂げ、スキポール空港とともに世界を代表する空港になっています。

空港は、国が生きていくために造られるものであり、当面の需要があるかないかの議論で済まされない社会資本であります。中部国際空港は、日本の発展を牽引していくために計画され、造られた空港であります。

成田空港開港時の航空局長の高橋寿夫氏(当時日本空港ビルデング(株)の顧問)が、「私が、中部国際新空港を応援するのは、日本のためである」よく語っていただきました。

この原点を大切に、中部国際空港は、日本の将来の発展を支える空港になるように、国にお願いしていきたいと考えております。

(2) 国の計画・地域の考え方

中部国際空港は、中部圏整備基本計画^(※1)に、21世紀のグランドデザイン^(※2)の中で中部国際空港は、明確に位置づけられております。

およそ25年程前地域を代表する初代の中部空港調査会の会長の発言^(※3)の中に、基本的な考え方が、表明されています。この歴史の流れ尊重して中部国際空港の将来像を策定していただく必要があります。

※1：中部国際空港は、中部圏の空港であり、中部圏の発展を支える役割を担っている。

※2：中部圏のグローバルゲートであり、国際級の規模と機能を有した滑走路等の整備を推進する。(平成10年策定)

※3：三宅重光中部空港調査会初代理事長は、「中部国際空港は、中部圏整備計画に基づき第1種空港にしたい」航空政策研究会で昭和63年講演



ボーイングのドリームドリフター(左)・ボーイング787(右):中部国際空港 撮影:岡本嘉久一氏

6 私どもの目標

(1) 当面の課題

成田、関空と並ぶ国際空港でありながら、お客も貨物も成田、関空へ流れています。最近の調査によりますと中部圏に住む人が、海外へ行くときの中部国際空港の利用率は、約6割であります。関東圏、関西圏での成田、関空利用率が90%を超えている現状を考えますと、まずはいかにして中部圏に住む人が、海外へ出入するときに、中部国際空港を利用するようにするかにあります。成田・関空経由では、海外から中部圏には、人は来ません。中部圏内の方々が、海外とお話をして、セントレアにきていただくPRが必要になります。同時に海外で乗り換えても、成田、関空で乗り換えないで、直接セントレアに着陸するルートの活用が大切になります。たとえば中部圏とイギリスミッドランドとの交流を促進するなど国際旅客の増加対策を努力の一助をしたいと思います。時間がかかりますが、大切な一歩と考えております。

(2) 中部国際空港の目標

- ① 中部国際空港は、中部圏の空港であり、世界と中部圏とを最短時間、最小コストで結ぶ、世界から中部国際空港へ直接に着陸できる空港を目指す。中部国際空港の機能は、滑走路間隔2KM以上の滑走路を計画し、同時離発着可能な成田(滑走路間隔:2400M)、関空(滑走路間隔:2200M)レベルの空港にする。

- ② 中部国際空港は、日本の将来の発展を支える社会資本を目指す。

第9回講演会で当時の中部整備局の富田局長が、「**社会資本整備とは、次世代の生活とか社会を支えるためにやっている 時を超えた国づくりである**」ことを強調してみえました。

歴史家塩野七生先生の「すべての道は、ローマに通ず」10巻の冒頭「インフラストラクチャーくらい、それを成した民族の資質を表すものはない」と語ってみえます。

さらに、ローマ人は、インフラを「人間が、人間らしい生活をおくるためには必要な大事業」と考えていたと語ってみえます。2本目滑走路整備の精神は、100年前に廣井勇博士が、小樽湾で計画・施行した防波堤のごとく、100年後のいまでも役に立つ雄大な発想にあり、日本の将来の発展を支えようとする心構えであると確信します。

(3) 中部圏が日本の要

中部圏は、国の計画の中で、「世界の産業技術の首都」に位置づけられています。日本の活力の源です。中部圏が世界のものづくりの中心です。中部圏が、元気にならなければ、日本が、世界が元気になりません。

中部圏は、経済規模でみれば、オランダ一国に匹敵するといわれています。

中部圏のグローバルゲートが、国の計画において認められている以上、グローバルゲートにふさわしい規模の空港を速やかに整備することは、日本のためであります。国がしなければならない大切な社会資本であります。

成田、関空と同じレベルの滑走路間隔2キロメートル以上を持つ、同時離発着が可能なオープンパラルの空港を整備されることにあります。日本再生の必須条件であります。

ダイナミックに増え続ける世界の航空需要にこたえるには、成田・関空・中部一体となって対応することが、日本の将来にとって大切であります。

●おわりに

加藤晃先生が、この6月お亡くなりになりました。ご冥福をお祈りするとともに、永年にわたり、中部国際空港の構想・計画・建設・開港後の運用などに心血を注いでこられましたことを省みて、深く感謝申し上げます。

中部圏内の数多くの社会資本整備に取り組まれ、わけでも、中部国際空港は、ライフワークになりました。人生最後のお仕事が、特定非営利活動法人「知多から世界へ」の活動となりました。先生は、最後の最後まで、中部国際空港の将来の発展を考えてみえました。

2年前、先生は、愛知県の顧問を勤められた蛇川雄司氏にこの特定非営利活動法人の理事長を快く引き受けていただき、大変喜ばれ、ほっとされてみえました。

これからも、加藤晃先生の遺志を大切に、知多地域と中部国際空港の発展のために、微力ではありますが、蛇川理事長はじめ多くの関係者ともども努力してまいります。これからも、特定非営利活動法人「知多から世界へ」の活動に、地域の皆様のさらなるご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



第15回「知多から世界へ」 講演会 in セントレア

平成24年8月28日(火) 午後2時より

3. 業務技術発表



既設橋の損傷状況を踏まえた 上路式アーチ橋の耐震補強設計

中央コンサルタンツ株式会社
神谷 建寛



本業務は、三重県が管理する矢湾大橋について、レベル2地震動に対する耐震性能確保を目的として耐震補強設計を行ったものである。既設橋は、沿岸部に位置し厳しい腐食環境に架橋されていることや、供用35年が経過していることから耐震補強設計を行うにあたり、腐食による鋼材断面の減少等の損傷状況を、現地調査（損傷調査・詳細調査）にて定量的に把握した。耐震補強設計は、調査結果にて得られた断面を既設橋条件とし検討を行い、断面補強及び制震装置の設置による複合案を採用した。また、補修設計では定期的な維持管理が困難な橋梁であることから、耐久性に配慮した補修設計を実施した。

Key Words：上路式鋼アーチ橋、耐震補強、座屈拘束ブレース、詳細調査

1. はじめに

的矢湾大橋は、一般地方道鳥羽阿児線（パールロード）の的矢湾に架かる上路式鋼アーチ橋である。本道路は、湾の兩岸を結ぶ唯一の道路であり、周辺には大型観光施設やホテル等があるため、生活道路としても、観光ルートとしても、地域にとっての重要な路線となっている（図-1）。

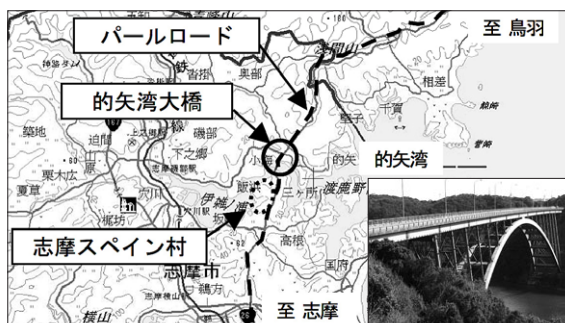


図-1 対象橋梁位置図

的矢湾大橋の基本諸元を表-1に示す。

表-1 橋梁基本諸元

項 目	内 容
形 式	鋼3径間連続上路式固定アーチ橋
交 差 物	的矢湾
橋 長 (支 間 長)	L=237.6m (236.4m=30.0m+176.4m+30.0m)
有 効 幅 員	9.0m
アーチライズ	31.0m
架 設 年 度	昭和51年6月
橋 格	1等橋(TL-20)

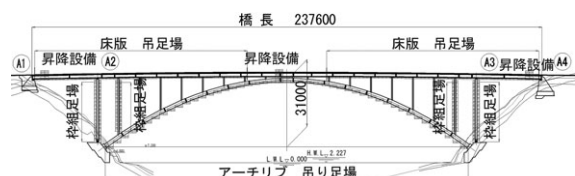
筆者は、当該橋梁のレベル2地震動に対する耐震性能確保を目的として、耐震補強設計を行った。

また、当該橋梁は海上の厳しい腐食環境に位置することや架橋後35年が経過していることから、劣化に対する補修が同時に必要であると判断した。補修工法としては鋼部材の当て板補強や部材取替えが想定され、これらの補修により部材剛度や荷重等が増加し、耐震設計に影響を及ぼすものと考えられた。よって、耐震設計に先立ち現橋の損傷調査を行い、損傷箇所の特定と補修設計を行った上で、それらを耐震設計に反映させた。

2. 現地調査（損傷調査・詳細調査）

(1) 調査方法

現地調査は、全部材への確実な近接目視と詳細調査を実施するため、調査用の全面足場を設置し、行った（図-2）。



アーチリブ・補剛桁・吊足場



端支柱・枠組足場

図-2 足場設置概要図

(2) 近接目視調査の概要と着目点

近接目視調査は、以下の点に着目して行った。

a) 鋼材の腐食による減厚

塩害環境下であるため、鋼材の腐食による板厚減少に伴い、耐荷力が低下している可能性があった。よって、うろこ状さび、層状さび形成箇所に着目し、デジタルノギス・デプスゲージや詳細調査（超音波板厚測定）により減厚量の定量的な把握を行った（写真-1）。

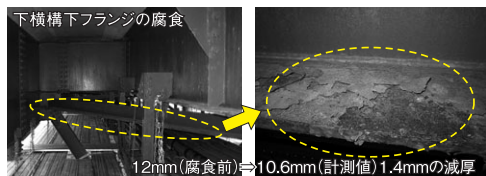


写真-1 亀裂の疑いのある塗膜割れ

b) 亀裂

応力集中箇所であるアーチクラウン部や垂直材とアーチリブの接合部等、アーチ橋において亀裂の生じやすい箇所（図-3）にて、亀裂にともない発生する塗膜割れに着目し調査を行った。塗膜割れが確認された箇所（写真-2）では、詳細調査（磁粉探傷試験・浸透探傷試験）にて鋼材の亀裂の有無を確認した。

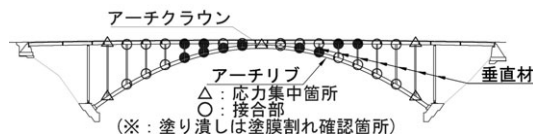


図-3 アーチ橋における亀裂の生じ易い箇所

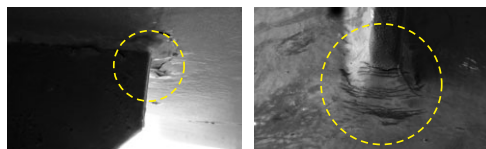


写真-2 亀裂の疑いのある塗膜割れ

c) コンクリート部材

コンクリート部材は、中性化や塩害にともない発生するひび割れ、剥離・鉄筋露出に着目した。

(3) 詳細調査

a) 超音波板厚測定

超音波板厚測定は、塗膜上から計測可能で、板厚減少の有無の評価基準は、道路橋示方書における板厚の製作許容誤差である5%を超過するものを、板厚減少が生じていると判定した。

〈超音波板厚測定〉

鋼材表面から入力した超音波が裏面で反射し戻ってくる性質を利用し、その伝播時間から板厚を測定する。

b) 亀裂調査（磁粉探傷試験・浸透探傷試験）

鋼材の亀裂の有無と範囲を確認するため、以下の試験を実施した。

〈磁粉探傷試験〉

強磁性体化させた鋼材に、亀裂が磁束の流れを遮断する性質を利用した試験。鋼材表面より2～3mmの深さであれば、亀裂が開口していなくても検出可能である。

〈浸透探傷試験〉

鋼材に生じた亀裂による毛細管現象を利用した試験。亀裂検出は、開口しているもののみであるが、磁粉探傷試験では検出できないピンホールのような点状の損傷が検出可能である。

c) コンクリート試験（圧縮強度試験・塩化物イオン濃度試験・中性化深さ測定）

コンクリートの健全性及び塩害・中性化の可能性を確認するため、コンクリート部材（拱台、床版）から採取したコアを用いて、以下の試験を実施した。床版からのコア採取については、当該部位の配筋間隔が狭いため、φ25の小径コアを採用した。

〈圧縮強度試験〉

設計基準強度と比較し、コンクリートの健全性を評価する。

〈塩化物イオン濃度試験〉

飛来塩分の影響による鉄筋深さまでの塩化物イオン含有量を計測する。

計測結果を用いてフィックの拡散方程式による拡散予測を行い、鉄筋位置にて腐食発生限界濃度である1.2kg/m³となる到達年を予測し、目標供用期間内での鉄筋腐食の可能性を判定した。

〈中性化深さ計測〉

フェノールフタレイン法により鉄筋深さまでの中性化深さを計測する。

計測結果を用いて√t測による進行予測を行い、鉄筋腐食の可能性が生じる中性化残り（塩化物イオン濃度の影響が大きい拱台は25mm、影響の小さい床版は10mm）となる到達年を予測し、目標供用期間内での鉄筋腐食の可能性を判定した。

(4) 調査結果

a) 鋼部材の腐食

近接目視調査の結果、添接板の下部や下フランジ上面等、水はけが悪く滞水のしやすい箇所に層状さびをとまう腐食が確認された。また、箱桁内部や支柱鋼管内部は、結露による滞水と腐食が確認された（写真-3）。腐食部位について超音波板厚測定を実施した結果、垂直材鋼管基部や端柱内部・下横構下フランジ等で板厚減少が確認された。これらの部位について、腐食状況が部分的であることを考慮した平均板厚¹⁾を用いて応力照査を実施し、設計当初の発生応力（常時・レベル1地震時）が許容応力以上となる部材（下横構）を補修対象とした（表-2）。

表-2 応力照査結果（網掛け：要対策）

部材	当初板厚	最大減厚値	平均板厚	応力照査	
				設計当初	板厚減少後
端柱	12.7mm	0.9mm	12.2mm	65.2%	68.1%
アーチリブ	16.0mm	3.8mm	14.1mm	74.3%	79.6%
垂直材	9.0mm	6.7mm	7.8mm	76.6%	93.7%
下横構	12.0mm	1.4mm	10.6mm	93.7%	102.0%

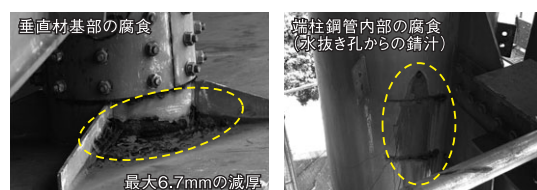


写真-3 現地腐食状況

b) 亀裂

近接目視調査の結果、亀裂の疑いのある塗膜割れは見られたものの、探傷試験を実施した結果、鋼材の亀裂は確認されなかった（写真-4）。

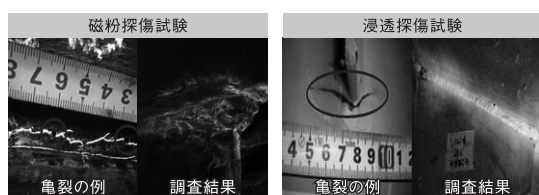


写真-4 磁粉探傷試験結果

c) コンクリート部材

近接目視調査では、床版や拱台の一部でひび割れや剥離・鉄筋露出が確認されたが、鉄筋の腐食膨張が軽微であることから耐力への影響は無いと判断した。詳細調査では、床版において目標耐用年数（100年）期間内での鉄筋位置までの中性化の進行が確認されたため、対策が必要と判定した（表-3）。

表-3 コンクリート試験結果（網掛け：要対策）

試験	試験	試験及び評価結果判定
拱 台	圧 縮 強 度	36.6N/mm ² （試験値） $\geq$ 21N/mm ² （ σ_{ck} ）
	塩 化 物	158年（到達年数） $\geq$ 100年（耐用年数）
	中 性 化	3019年以上（到達年数） $\geq$ 100年（耐用年数）
床 版	圧 縮 強 度	25.9N/mm ² （試験値） $\geq$ 24N/mm ² （ σ_{ck} ）
	塩 化 物	9999年以上（到達年数） $\geq$ 100年（耐用年数）
	中 性 化	38年（腐食開始年） $<$ 100年（耐用年数）

3. 補修設計

当該橋梁が定期的な維持管理作業が困難であるという構造特性を考慮して、補修工法として耐久性を念頭に以下の対策を行った。

(1) 耐震補強部材と兼用した部材取替

補修が必要と判定した下横構は、耐震補強設計上必要な断面にて取替を行うことにより、耐震補強部材を兼用させ、効率的な補修対策を行った。

(2) 塗装塗替え・腐食対策

鋼部材の腐食に対して、耐久性の高い1種ケレンによるRc-I系塗装による塗装塗替えを採用した。

損傷状況から、特に腐食進行の著しい添接板や下フランジ上面は、橋梁全体での塗装塗替え時期を伸ばすため、C系塗装にさらに下塗り量を増やした、耐久性の高い塗装系を採用した。

また、帯水・結露対策として水抜き穴の設置や、添接部の隙間にシーリング材の充填を行った。

(3) 中性化対策

床版には、コンクリート表面から塗布した含浸剤によりコンクリート組織を緻密化させ、二酸化炭素の侵入を防止することにより、中性化対策として効果的である、けい酸ナトリウム系の表面含浸工法を採用した。

(4) ひび割れ・剥離・鉄筋露出対策

ひび割れ・剥離・鉄筋露出については、さび汁が確認されなかったこと及び鉄筋腐食が軽微であるこ

とから、劣化因子の進入を防止するためのひび割れ注入・充填工法・断面修復を行った。

4. 耐震補強設計

耐震補強設計においては、既設橋の損傷状況を正確に反映させるため、補修により取替を行う下横構は、取替え後の断面にて検討を行い、腐食により板厚減少が生じているが、補修不要と判定した部材は、板厚減少を考慮した平均板厚により検討を行った。

(1) 耐震性能照査方針

道路橋示方書においては、レベル2地震動に対する限界状態（耐震性能2）は、塑性化を考慮する部材を明確にし、考慮した部材のみに塑性化が生じ、その塑性変形が当該部材の修復が容易に行い得る範囲で適切に定めるものとされている。各部材の耐震性能2に対する限界状態を表-4に示す。

表-4 耐震性能2における限界状態

対象部材	要求性能
上部工・支承・落橋防止（※1）	部材が降伏限界を超えない 部材が座屈限界を超えない
制震装置・二次部材（※2）	部材が変形限界を超えない

※1 非エネルギー吸収部材：塑性変形によるエネルギー吸収が原則として許容されない、または期待できない部材

※2 エネルギー吸収部材：塑性変形によるエネルギー吸収を期待する部材

(2) 既設橋照査結果

既設橋照査は、レベル2地震動に対して塑性化する部材を確認することを目的として行った。照査方法は、全部材を線形要素によりモデル化した3次元立体骨組みモデル（図-4）において動的解析を行い、算出した断面力に対して、各部材の断面計算を行った。動的解析の解析条件を表-5に示す。

表-5 動的解析条件

項目	内容
重要度区分	B種
地域区分	A地域（ $C_z=1.00$ ）
地盤種別	I種地盤
解析方法	線形動的解析
解析手法	直接微分法（Newmark β 法）、 $\beta=0.25$
積分時間間隔	0.01（sec）
比例減衰タイプ	Rayleigh減衰
上部構造の取扱い	剛域を除いて全部材断面有効
下部構造の取扱い	剛域を除いて全部材断面有効
入力地震動	レベル2地震動（タイプI,II）

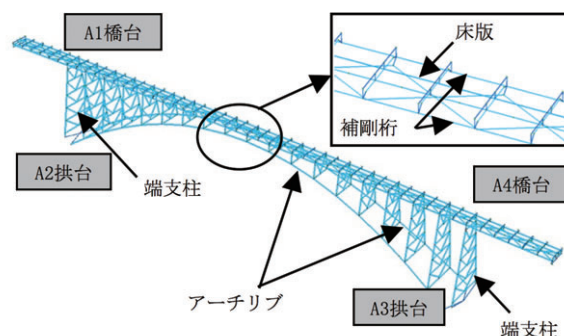


図-4 動的解析モデル

動的解析の結果から、橋軸方向、橋軸直角方向それぞれの加震方向について、図-5の太線で示した部材に塑性化が生じることが確認された。上路式鋼アーチ橋は、重心位置が高く、橋軸直角方向は幅が小さいため、応力超過が支配的となった。

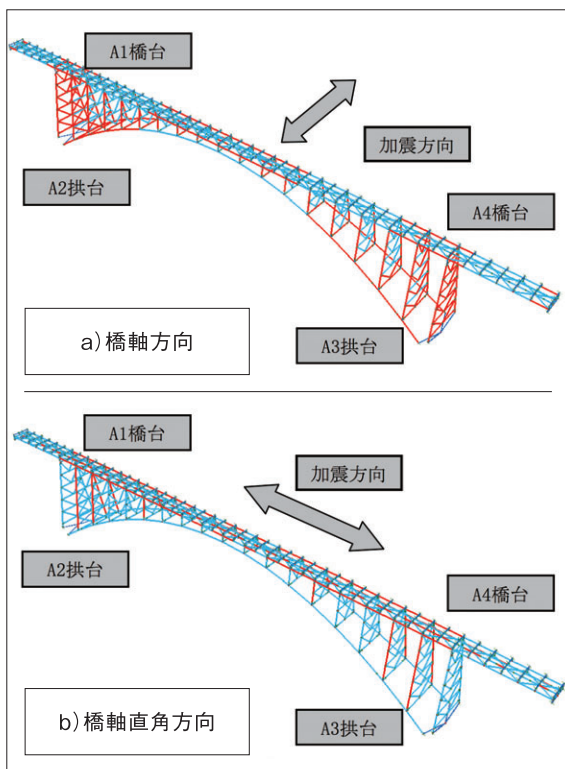


図-5 既設橋照査結果

(3) 耐震補強検討

既設橋は、トップヘビーな構造であることから、死荷重が大幅に増加する補強工法を避ける必要があった。

道路橋示方書においては、エネルギー吸収部材（主たる塑性化が生じる部材）は、確実にエネルギー吸収を図ることができ、かつ速やかに修復を行うことが可能な部材を選定し、非エネルギー吸収部材の副次的な塑性化については、地震による応答が部分的に塑性域まで達することを認めている。

ここで、本耐震補強検討においては、国土技術政策総合研究所との協議により、地震時の副次的な塑性化を認めず、制震装置等のエネルギー吸収部材のみ塑性化を考慮する方針とした。

耐震補強の工法については、①部材断面を追加し、部材の断面力を向上させる方法と、②制震装置により地震時エネルギーを吸収させ、地震応答を低減させる方法が考えられる。そこで、以下に示す3案について比較検討し、補強工法の選定を行った。

第1案：断面補強案

第2案：制震装置設置案

第3案：断面補強及び制震装置による複合案

ここで、制震装置については、座屈拘束ブレース「軸力降伏型鋼製ダンパー」を用いた。座屈拘束ブレースは、座屈拘束管、十字心材、中間材で構成され、常時は通常の対傾構として機能し、地震時には、座屈拘束管内の十字心材が塑性変形を起こすことにより、座屈拘束ブレースの伸縮に伴って、地震エネルギーを吸収する構造である（図-6）。

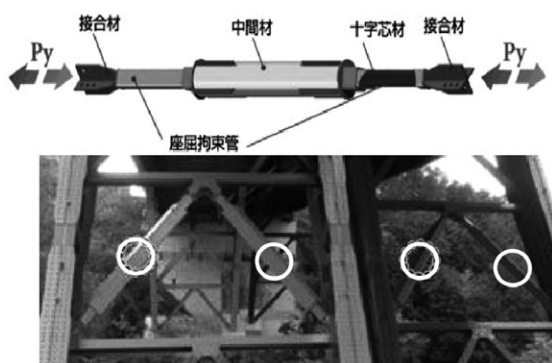


図-6 座屈拘束ブレース構造と設置例

表-4に示す検討結果から、制震装置によるエネルギー吸収を行う第2案と第3案が、第1案と比較し死荷重増加を軽減でき、経済性においても優れる傾向となることが確認された。

第3案は、端支柱及び端支柱に近い垂直材2箇所のみに座屈拘束ブレースを設置することによりエネルギー吸収を効率的に行い、3案中最も経済的となったため、耐震補強工法の採用案とした（図-7）。

表-4 耐震補強工法比較表

案	1案	2案	3案
補強鋼材	約950t	約550t	約610t
経済性	1,700百万	1,400百万	1,300百万
評価			○

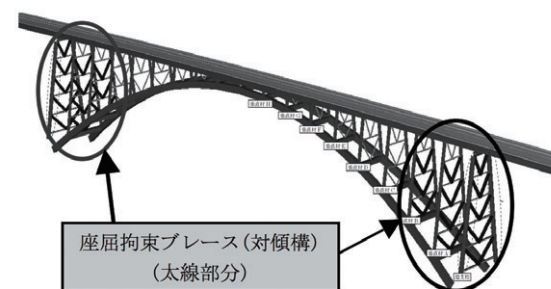


図-7 座屈拘束ブレース設置箇所

5. おわりに

本業務では、耐震補強を実施するに先立って現橋の損傷を確認し、補修結果を取り入れた設計を行うことができた。また、調査による板厚減少を考慮した場合においても、補強規模が変わらないことを確認できた。アーチ橋のような特殊形式の橋梁では、当て板補修等により断面が変化するため、調査・補修設計を併せて実施することが有効であり、今後の業務に活かしていきたい。

【参考文献】

- 1) 土木学会編：腐食した鋼構造物の耐久性照査マニュアル、土木学会、2009。



既設ケーソン基礎の 耐震補強に関して

株式会社オリエンタルコンサルタンツ中部支店 技術部
梶井 敦・林 克弘



平成7年の兵庫県南部地震以降、橋脚の耐震補強は進められてきているが、これまでの震災で大規模な被害が目立っていない基礎に対しては、先送りになっている状況である。竣工時期が古い橋梁基礎の中には、鉄筋量が著しく少ないものや河床変動などの外的要因による基礎の突出により耐震補強が必要なものは数多くある。本稿では、ケーソン基礎の補強に視点を向け、その補強方法について紹介するものである。

Key Words：河川内橋脚、耐震補強、ケーソン基礎、増し杭

1. はじめに

平成7年の兵庫県南部地震以降、我が国では、道路橋に対し必要な耐震性能を確保するために橋脚などの補強が行われてきた。しかしながら、限られた予算の中、重大な二次災害を防ぐために、過去の震災で落橋に直接つながるような被害が生じた橋脚躯体や支承部の耐震補強が優先されてきた。この考えに基づき、平成17年度から19年度にかけて、『緊急輸送道路の橋梁耐震補強3箇年プログラム』が実施されたところである。

ケーソン基礎は、地上で構築した筒状の躯体の底部地盤を掘削して自重などで沈下させる工法であり、地下水の浸入を防ぎながら掘削できるため、古くから河川内橋脚等に比較的多く採用されてきた。しかし、平成8年道示以前に施工されたケーソン基礎は、著しく鉄筋量が少ないと言われており、耐力的に安全であるとは言えない。¹⁾

また、当橋梁のように河床地盤が洗掘され、ケーソン上部が突出されているケースは多数見られるが、基礎の安定性についても懸念される。

これまで、基礎に対する補強は、先送りにされてきた実態があり、平成14年の道路橋示方書で定める耐震性能が確保されていない基礎は数多くある。

本橋では、これまで、明確な設計方法が確立され

ておらず、曖昧な範囲であった既設ケーソン基礎と増し杭との結合方法および荷重分担に着目し、今後の基礎補強のための参考としてなるよう事例を紹介する。

2. 業務の概要

(1) 基本条件

本橋の緒元は、表-1のとおりである。7径間連続トラス橋であり、下部構造には壁式橋脚、基礎構造にはニューマチックケーソンを採用している(図-1)。

表-1 基本条件

①	設計荷重	: B活荷重(既設橋 TL-14)
②	橋の重要度	: B種の橋
③	地盤種別	: II種地盤
④	橋長	: L=311.0m
⑤	支間割	: 37.6m + 5@47.0m + 37.6m
⑥	上部構造形式	: 7径間連続トラス橋
⑦	下部構造形式	: 壁式橋脚(小判型断面)
⑧	基礎構造形式	: ニューマチックケーソン

(2) 本橋の状況

昭和29年に施工された橋梁である、交通安全のための上部工の拡幅が計画され、上部工死荷重の増大に伴う、下部工および基礎補強の耐震性能を

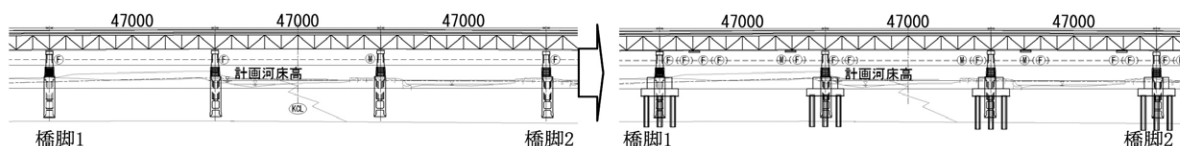


図-1 側面図(一部抜粋)(左:現況、右:補強後)

確保する必要性が生じた。

また、近年の大雨に伴う河床変動により、橋梁部の河床が洗掘されており、ケーソン基礎の上部が突出した（図-2）。



図-2 突出したケーソン基礎

(3) 現況の耐震性能

橋脚は、平成8年道示に準拠したRC巻立て工法により補強しているため、耐震性能は保有しており、拡幅分重量に対する補強のみでよいが、基礎については、未補強であるため、耐震性能を満足していない状況である（表-2）。

表-2 既存のケーソン基礎の安全性

		橋脚1			
		橋軸方向		橋軸直角方向	
L1	鉛直地盤反力度 q_{max} (kN/m ²)	4207 > 1503	×	880 ≤ 1645	○
	せん断地盤反力 H (kN)	4971 > 3140	×	1558 ≤ 1645	○
	変位 δ (mm)	1071.6 > 30.0	×	56.0 > 50.0	×
L2	最大モーメント M_{max} (kN・m)	21003 ≤ 21230	○	12,229 > 12,202	×
	前面塑性率 λF (%)	61.1 > 60.0	×	34.91 > 20.0	×
	最大せん断力 S_{max} (kN)	3540 > 2501	×	2605 ≤ 5797	○

これは、前述したとおり、ケーソン基礎内の鉄筋量が著しく少ないことが起因していることが考えられる。図-3は、中谷氏らの研究成果²⁾より加筆したものであり、平成8年道示適用以前・以後のケーソン基礎の鉄筋量をプロットしたものに、領域①～④に分類したものである。本橋は①に分類さ

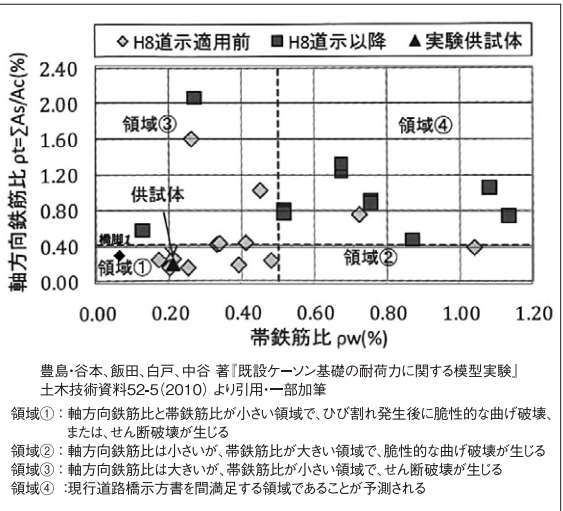


図-3 軸方向鉄筋および帯鉄筋の関係図

れ、『軸方向鉄筋比と帯鉄筋比が小さい領域で、ひび割れ発生後に脆性的な曲げ破壊、または、せん断破壊が生じる』と評価される。この関係図からもケーソン基礎の耐力が小さいことがわかる。

3. 橋脚補強の概要と結果

すべての既設橋脚に対して耐震補強済み（RC巻立て）であったため、拡幅分の上部工重量に対して、固定橋脚の橋軸方向以外で、耐震性能を満足した。補強方法としては、下記の留意点より、橋梁全体系の耐震性能向上を図った。

- ①河積阻害率が4.64%（投影面積）であり、増し厚補強が困難。
- ②橋脚柱の再補強は、配筋が煩雑であり、施工が困難。
- ③基礎の補強規模を小さくするために、基礎への負担を軽減（柱の耐力を必要以上に上げない）

補強が必要な固定橋脚は、橋軸方向の地震時分担重量が大きく耐力不足となるため、余耐力のある可動橋脚も含め橋梁全体で均一に分担させる方法を採用した。常時において支承条件を変えると、必要以上に耐力があがり好ましくないので、支承構造にレベル2地震時発生時のときのみ機能する固定装置を全橋脚に設けた。

拡幅前と比べ、拡幅後は上部工重量が増加するため、橋脚の軸力が増し、保有水平耐力が増すこととなる。一方、固定装置が働いたことで作用力が全橋脚に分散され、固定橋脚への作用力が小さくすることができる。

その結果、表-3のように拡幅分の重量に対する耐震性能は満足する結果となる。

表-3 橋脚の耐震性能向上

			橋脚1			橋脚2				
			Pa		khcW		Pa		khcW	
固定装置なし	橋軸方向	タイプⅠ	2486	≦	2506	×	2463	≦	2500	×
		タイプⅡ	2486	≦	2506	×	2463	≦	2500	×
固定装置設置	橋軸方向	タイプⅠ	2647	≧	2026	○	2623	≧	2020	○
		タイプⅡ	2648	≧	2431	○	2623	≧	2121	○

4. 基礎補強の概要と課題

現在、ケーソン基礎の補強の実績が少ないが、地盤条件、施工性を考慮した結果、玉石混じり礫質層（8～20cm程度）でも施工が可能な増し杭（礫質地盤用のオールケーシング工法）を採用した（図-4）。

一つの下部構造を異なる基礎構造で補強する場合、荷重の伝達や荷重分担の考え方等を考慮する必要がある。また、基礎上部の突出等、本橋の特徴を踏まえた上で、次項の課題に着目した。

- ①突出したケーソン基礎部の対処方法
- ②既設ケーソンと増し杭の荷重分担
- ③既設ケーソンと増し杭の一体化
- ④フーチングおよび根巻きコンクリートの照査方法

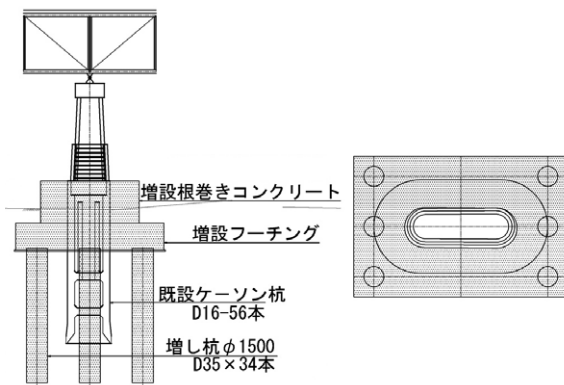


図-4 増し杭補強の姿図

5. 課題に対する対策方針

課題に対する方針および結果は、代表橋脚（P5橋脚とする）について説明する。

(1) 突出したケーソン基礎部の対処方法

ケーソン基礎の水平載荷履歴時は、土層境界位置にクラックが生じやすく、基礎が上下に分断され、図-5のように上方のケーソンが直接基礎のように浮き上がり、着地を繰り返すことがわかっている²⁾。さらに、近年の研究では、水平載荷されたケーソン基礎にクラックが入っても、すぐには橋梁に影響しないことがわかってきた。

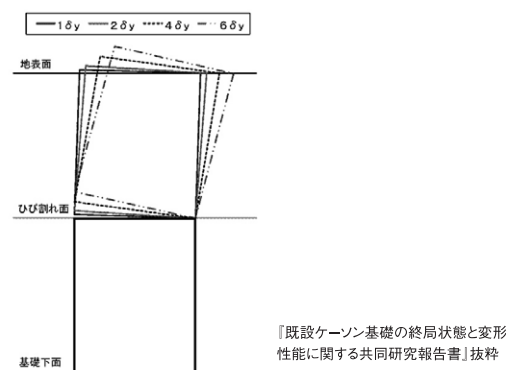


図-5 ケーソン基礎のひび割れ後の挙動

しかし、ケーソン自体の沈降や塑性化による被害が少ないのは、周辺地盤からの受動土圧や基礎周辺摩擦力が発揮されたためと考えられている^{2) 3)}。このことから、突出したケーソンは、補強する必要があるため、突出部に根巻きコンクリートを設置し、レベル2地震時に降伏させないようにした。

根巻きコンクリートを設置した場合、投影面積に対する河積阻害率が6%程度となるが、協議にて了承を得た。

(2) 既設ケーソンと増し杭の荷重分担

既設ケーソンと増し杭基礎の荷重分担は、鉛直方向および水平方向それぞれについて表-4のように分担させた。

既設ケーソンは、上部工の鉛直荷重に対し、十分な耐力を保有しているため、既設ケーソン自身で受け持つこととした。

表-4 荷重分担比

		ケーソン基礎	杭基礎
	既設上部工	100%	0%
鉛直方向	上部構造拡幅分	鉛直バネ比	
	下部増厚・底版分	鉛直バネ比	
水平方向	上部構造分	0%	100%
	下部増厚・底版分	0%	100%
モーメント	上部構造分	0%	100%
	下部増厚・底版分	0%	100%

鉛直方向の上部構造の拡幅分および下部増厚・底版分は、鉛直バネ比率から荷重分担とした。

なお、道路橋示方書では、『1基の下部構造は原則として異種の基礎形式を併用してはならない…（中略）荷重方向別の分担方法を考えた構造は差し支えない。この場合、地震時の挙動について十分検討し…』としているため、荷重分担が0%、および100%の場合について、確認した。

水平方向への分担については、既設ケーソンおよび増し杭それぞれに有す保有水平耐力を比較し、検討した（図-6）。

増し杭の保有水平耐力は、ケーソン基礎に比べ約10倍保有している。降伏変位が2.7倍程度大きく杭が弾性域にいる状態ですでに、ケーソンは降伏を超え終局状態に達し、水平荷重を受け持てない。このため、水平分担力は、増し杭がすべて受け持つものとする。

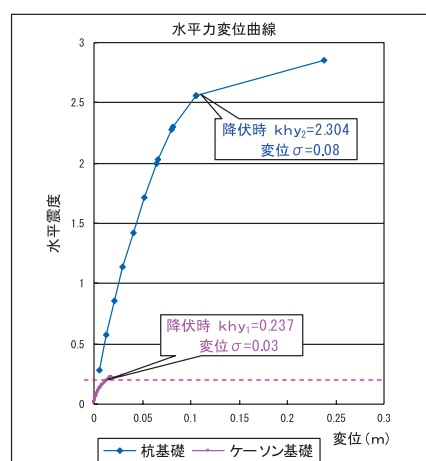


図-6 水平力変位グラフ

(3) 既設ケーソンと増し杭の一体化

増し杭は、上部工の拡幅による増加重量および水平荷重を受けることを想定している。既設ケーソンよりフーチングを介して増し杭に荷重を伝達させるため、既設ケーソンとフーチング間でのズレ止めの

ために、図-7のようにアンカーを設けた。この場合、アンカーの定着長は、引抜き耐力は考慮せず、せん断耐力のみによって荷重に抵抗するのみであるため、落橋防止システム等に使用されるアンカー鉄筋と同様で“鉄筋径の10倍”とした。

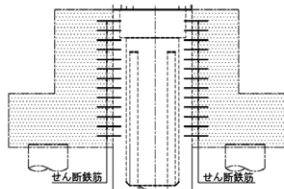


図-7 アンカー鉄筋の配置

(4) フーチングおよび根巻きコンクリートの照査方法

構造物体としては、通常の部材照査に加え、下記の2点に着目し、照査を実施した。

① フーチング主鉄筋の照査

既設ケーソン根巻き部を固定端とした曲げモーメントに対して照査した（図-8）。

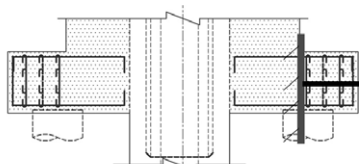


図-8 フーチングの照査荷重

② 連結梁としての照査

根巻きコンクリート部の断面は、柱下端（根巻き天端）に柱下端作用力を作用させて根巻き下端で算出して照査を実施した。

図-9のように、根巻きコンクリートを骨組みモデルとして取扱い、一定の作用力を与え、その挙動を考察した。橋軸方向の作用力を与えた場合（0.1mm）に比べ、橋軸直角方向の作用力を与えた場合（0.02mm）は、わずかな変位しかみられない。したがって、橋軸方向は、直線部のみの断面で耐力を確保し、橋軸直角方向は、曲線部も入れた内側全体の断面で耐力を確保すると考えた。

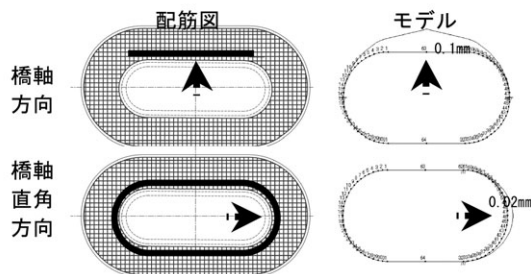


図-9 連結梁としての照査

6. 補強結果

増し杭での補強の効果は、表-5のとおり、拡幅時に不足していたレベル2地震時に対する耐震性能を確保することができた。

表-5 杭基礎の耐力照査結果

		橋脚1	
		橋軸方向	橋軸直角方向
L1	曲げ圧縮応力度(N/mm ²)	5.25 ≤ 12.00	3.81 ≤ 12.00
	曲げ引張応力度(N/mm ²)	167.54 ≤ 300.00	86.16 ≤ 300.00
	せん断応力度(N/mm ²)	0.616 > 0.510	0.516 ≤ 0.517
L2	必要帯鉄筋量(cm ²)	0.813 ≤ 7.742	
	降伏しない杭の曲げモーメント(kN・m)	2006.57 ≤ 4109.10	4026.07 ≤ 4109.10
	杭頭の最大押入力(kN)	5645.42 ≤ 14585.00	4934.12 ≤ 14585.00
	杭本体のせん断耐力(kN)	12106.20 ≤ 16105.5	15276.64 ≤ 16105.5

7. 考察(まとめ)

本橋では、突出したケーソン基礎の対応、既設基礎と補強基礎の一体化、分担重量の考え方、照査方法に着目して、補強設計を実施した。

本業務の得た成果を以下に述べる。

- ① 橋脚躯体の補強設計を行う場合は、河積阻害率による橋脚躯体のコンクリート巻き立て厚の制約や、基礎への負担軽減を考慮し、橋梁全体系の補強工法を併用するなど、必要なことも考えられる。また、3ヵ年プログラムによる過去の補強を施された躯体については、再補強を避けることが可能であり、全体系補強は、有効であると言える。
- ② 河床地盤が洗掘され、ケーソン上部が突出されているケースは多数見られるが、突出したケーソン基礎を、根巻きコンクリート等で補強することで、対応することができる。
- ③ 既往の研究より鉛直荷重は、分担荷重を鉛直バネ比より算出した。道路橋示方書Ⅳ9.1では、設計計算の煩雑さの理由から地震時の挙動について十分な検討が必要であると記している。これに対して、さらなる検討方法が必要であるが、今回設計では、増し杭への軸力を変動させ、確実性の検証を行った。
- ④ 水平荷重に対する分担荷重については、竣工年度が古いケーソン基礎では、ほとんど期待できない場合が考えられる。水平荷重は、増し杭のみで、受け持つことが有効である。

以上、本橋が、今後のケーソン基礎の補強工法に参考となれば幸いである。

謝辞：今回の業務を行うにあたり、多くの方々にご意見・ご指導を頂き、この場を借りて感謝の意を表したいと思います。

【参考文献】

- 1) 構造物メンテナンス研究センター：既設道路橋基礎の耐震性能簡易評価手法に関する研究、土木研究所資料第4168号、2010.5
- 2) 日本圧気技術協会：既設ケーソン基礎の終局状態と変形性能に関する共同研究報告書、共同研究報告書417号、2011.2
- 3) 中谷昌一、白戸真大：既設道路橋基礎の耐震性能評価手法に関する評価、橋梁基礎の耐震補強技術に関する試験調査、2009

4. 投稿



仕事をするうえで大切なこと

愛知県一宮建設事務所 道路整備課
宮下 正史

15年間建設コンサルタントで橋梁の計画・設計に携わってきました。建設事業により幅広く携わりたいという思いと、やりがい求め、4月から愛知県職員として採用され、現在、道路整備に関わる業務を担当しています。まだ3ヶ月程度のため、仕事の内容は十分に把握できていませんが、以下の2つのことがより大切と感じています。

①コミュニケーション

必要かつよりよい物を作るためには、地元住民の方々はもちろんのこと、関係機関、建設コンサルタント、施工業者等とのコミュニケーションが不可欠と感じています。建設コンサルタントで働いていたときには、発注者に対し「こんなことを言ったら失礼ではないか?」とか変に遠慮していたような気がします。発注者の意見が明らかに誤っていると感じても、その場でははっきりとは否定せず、後日、別途資料を作って説明するなど、今考えると無駄な作業をしていたなあと思います。受注者がすべきことは、発注者の機嫌をとることではありません。必要なのは、お互いにコミュニケーションをとり、意見を出し合い、より良い物を作る事だと思います。そのために、発注者側からもコミュニケーションをとりやすい雰囲気を作っていきたいと思っています。

関係機関、建設コンサルタント、施工業者は、我々行政のパートナーです。コミュニケーションを大切にし、よりよい事業を進めていきたいと思っています。

②相手の立場に立って物事を考える

建設コンサルタントで働いていた頃は、目の前にある仕事をひたすらこなしていく毎日でした。相手の立場に立って物事を考えることはしていたつもりでしたが、十分ではなかったのではないかと今更ながら反省しています。

自分の立場だけではなく、相手の立場に立って物事を考えることは、決して難しいことではないと思います。ただ、相手が複数であったり、その他の制約がある場合が多いため、広い視野で物事を考えることがより必要と感じています。

近年、土木構造物の維持管理費の増大が深刻な問題となっています。今、我々が作っている土木構造物のほとんどは、次世代へ残していく物だと思います。将来の維持管理費の低減、長寿命化など、次世代の立場に立って物事を考えることも必要だと思います。

以上の2つのことを大切に、かつ日々自己の技術力の研鑽を図りながら業務に取り組んでいきたいと考えています。





親として思う土木行政について

豊田市役所 産業部 森林課
山下 浩一

今年から長女が小学校へ入学となり私の母校へ通うこととなりました。卒業以降、小学校へ足を運ぶこともほとんどなくその頃の記憶が薄れていた中で、入学式で小学校に足を踏み入れた際には、教室、体育館及びグラウンドなどを見るにつれ、当時の記憶が呼び起こされるような感じを覚えました。

私の卒業から既に29年が経過していますが、小学校は当時の面影を色濃く残しており、当時と同じ鉄筋コンクリートの校舎は、小学校区の分割や人口減により生徒数が当時の半数に減少（当時は全校生徒2千人規模）したことで、教室以外に特別室としての利用も多数見られ、授業環境は当時と比べ改善されているようでした。

学校施設に目を移せば、鉄筋コンクリート3階建ての教室棟は私が在学中に建設されたもので、使用年数は30年弱であり今後もしばらく使用されていくと思います。しかしな

がら、当時の基準で画一的に建設された校舎などの学校施設は、近年の環境配慮の視点に基づけば、大きなコンクリート建築物は敷地内の無機質感を強調し、アスファルト舗装された歩行部は景観性の欠如を強く感じさせます。また、木立が不足し日陰が少ないことにより、夏場の高温化といった環境衛生面での配慮不足も感じられました。

これらの点は、建設当時の環境配慮に対する着目性の低さや維持管理の容易性によるものだと思えます。世代を超えて長期に利用される公共建造物等の計画立案や設計に際し、それに携わる我々は、将来の基準や施策動向などを全て見込めるわけではありませんし、予算事情に基づく妥協を強いられることもあります。しかしながら、その役割にあるものとして安全性、自然環境への配慮、景観性などの普遍的価値観はどうあるべきか常に考え、将来に渡って価値あるものを子どもたちの世代へ引き継ぎたいと思います。



空間情報総括監理技術者による「スペシャリストの会」に刺激を受けて

アジア航測株式会社 中部コンサルタント部
総合防災課 恩藤(湯川) 典子

社会人になってから砂防の仕事に従事し、来年で20年になります。その間、2回の産前産後休業、育児休業をとらせていただきました。周りにいらっしゃる皆様のおかげで、働き続けられていることが身にしみる毎日です。時間に縛られることが多く、長期出張や残業ができないこと、子供の発熱等で急な休みをいただくことなどから、第一線では働けない、と気落ちすることも多くあります。

しかし、昨年度受験した空間情報総括監理技術者の口頭試験および資格取得後に入会した「スペシャリストの会」に刺激を受け、「時間がない」「仕事がない」「お金がない」と嘆くだけではなく、業界の地位の向上にいくらかでも貢献できるよう自らが主体的に行動していく必要性を感じています。

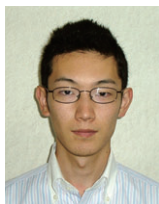
「スペシャリストの会」は、社団法人日本測量協会が実施する民間資格「空間情報総括監理技術者」の有資格者が、空間情報技術の更なる発展の先導的役割を担うことを目的とした自主的な活動組織です。会員の所属する企業・機関の枠を超えた自主的・独立的な運営を基本に据えた活動を行うことにしており、情報交換会・講習会・講演会などを通

して会員相互の自己研鑽につとめるとともに、空間情報技術の指導と普及等を目的としています。

資格取得がゴールではなく、資格取得後に各人が何をするか、それも、自社の受注アップにとどまらず、業界・社会への働きかけが求められている組織だと言えます。

また、「スペシャリストの会」中部支部に参加させていただくなかで、会員の先輩方が資格取得や特許取得等に積極的かつ楽しそうに取り組まれる姿勢を目の当たりにしました。砂防分野以外の方のやりとりも新鮮であり、現在の環境のなかで継続的に技術研鑽していくこと、常に新しい情報や技術者の方と交流を深めていくことが重要であると改めて実感しています。

砂防の分野では、山間地域の広域の地形情報等を迅速に、必要な精度で把握することが必要になります。厳しい経済状況の現在において、広域な空間情報データは多様な分野での活用が求められます。今後、砂防の枠にとらわれず、現在およびこれまでの技術者の方々の知恵や技術を応用しながら仕事に取り組み、微力ながらも言葉を行動へとつなげたいと考えます。



設計経験を重ねながら

アローコンサルタント株式会社
技術1部 水野 成夫

入社して今年で5年目になりました。設計ではCADを使うのが当たり前でした。しかし、CADは数年前に大学の授業で数回使ったことのある程度であり、あまり使い方を覚えていませんでした。そのため、入社後はまずはCADの操作を覚えることから始まりました。大学時代に多少使ったことがあったおかげで操作自体はすぐに覚えることができました。操作自体は簡単だったのですが、図面の作成には線の太さや線種などが製図基準で決められたものがあり、CAD操作以外にも覚えることが多くて大変でした。

入社してからいろいろな仕事に関わってきました。設計の仕事は初めてのことばかりで学生時代以上に勉強の毎日です。様々な内容の業務があるため、上司や先輩方の指導を受けたり、過去の成果品を読んだりして設計に必要な知識を学びながら業務をこなしています。土木設計の仕事は人々の生活に密接に関係しており、近年の異常気象による集中豪雨や地震・台風等による災害を見て、土木設計の重

要性を改めて感じています。土木構造物は完成後何十年と経過し、老朽化が進んでいるものが増え更新時期を向えています。国及び地方の財政の困窮により公共事業の予算が厳しく、今後が懸念されます。そこで、新しいものを作るだけでなく、補強、補修、改修などによりコストを抑えて構造物の寿命を延ばしたり、安全性を高めたりする事が重要になってくるのではないかと思います。

5年目にもなると自分が設計に関わった業務の現場が完成してきています。最近では遊歩道や親水公園の設計に関わり、その完成した現場を見る機会がありました。完成したばかりの遊歩道や休憩施設などが利用されているのを見ると、とても嬉しかったです。これも土木設計に関わる者の楽しみの一つだと思いました。これからも安全でより良い設計が出来る技術者になれるように、多くの事を学びながら設計の仕事に励みたいと思います。



公共事業が毎日の安全な暮らしを守っていることを知ってほしい

株式会社大増コンサルタンツ 三重支店
課長 奥田 雄司

「いち技術者として、仕事に誇りを持ち、仕事で世の中の役に立ちたい」、これが建設コンサルタントと言う公共事業に携わる者としての率直な気持ちです。違う言い方をすれば、将来自分の子供に「ここは、父さんが考えた道路なんだよ」と言い。「へ〜、すごい」などと言われてみたいというのが、ささやかな夢です。このことは、毎日の安心・安全な暮らしを公共事業が支えているという意味も込めています。

しかし、現実には厳しい風当たりで、2009年に民主党が「コンクリートから人へ」のスローガンを推進したことで、今では公共事業不要論が一般化してしまいました。こんなに悔しいことはありません。実際、安全な暮らしを守るには公共事業が必要不可欠だと言うのに。特に、東日本大震災後に思い出すことは、自分が子供の頃(1983年頃)に見た地震によるアメリカの橋の崩落事故ニュースがあります。あれは、大都市をつなぐ橋が、何台もの車とともに崩れ落ちた瞬間でした。最初は、アクション映画のワンシーンかと思いましたが、実際には橋の老朽化を放置したことによ

る現実の出来事だったのです。

日本でも道路や橋の老朽化は進んでおり、安全な施設として人々を守ってきた物であっても、今後も人々の生命を守り続けるためにはメンテナンスが必要です。場合によっては新設だっとなければなりません。そのことを国民から必要とされてやっていきたいものです。今までの公共事業は、国を始め、その必要性をあまりうまく説明できていなかったかも知れませんが、これからは、いち技術者も含めて、関係者全員が積極的に声を出し、国民に認められなければならないと思います。

そして、これを実現するために自ら実行できることは、誠実な業務遂行と情報発信だと思います。特に、建設コンサルタント業務は、公共事業としてかなり上流の仕事であり、この良い悪しが最終的な利用者にと与える影響が大きいので、可能な限り良い物を創っていくとともに、その情報を何らかの形で発信し、何とか市民権を回復していきたいと思っています。



マニュアルには載っていない防災技術

株式会社バスコ 中部事業部技術センター
空間情報技術部 石黒 裕隆

コンサルタント業界に身を置き20数年。さまざまな分野を経験し、現在は「防災」に関連する業務に携わっています。

防災とは、字の如く被災を防ぐという意味です。しかし近年災害対策を行う上で、被災を完全に無くすことは社会情勢などの影響で、コスト等を含め難しい状況となっています。そのため被災を完全に無くすのではなく、被災の度合いを低くするという考え方に基づいた「減災」がひとつの方策として実施されるようになりました。

これら防災・減災は、防災関連業務の最優先の課題です。また、私たち技術者は業務を遂行する上で、自らの身に対する災害への防災も同様に取り組まなければなりません。

防災に関する業務は、現場作業なしでは始まりません。想定される業務上の災害等は、「移動中の交通事故」「現地作業中の転倒、墜落、転落、交通事故」など様々な事象が想定されます。

現在は、「安全衛生委員会の設置」、「入社時教育」、「定期的な教育」に始まり、業務実施時の「新規入場者教育」や日々の「KY活動」が実施されています。

業務の目的である防災については、例えば落石に対する現地調査の場合、現地で不安定な浮石の状況を見て、

それがどの程度不安定なのか、保全対象との位置関係、周辺地形や地質、植生状況など総合的に判断し、緊急性や想定される災害や規模、対策工の概略選定などが出来ることが必要な能力であります。

また、自分の身に対する防災は、例えば斜面における現地踏査中、現地の斜面状況、植生状況や斜面の湿潤状況、同僚との位置関係などを常に意識して、上方からの落石や滑落しないような行動を常時シミュレーションしながら作業を行う能力が必要です。

これらに共通している事は、マニュアルや技術関連図書に記載されてない事です。

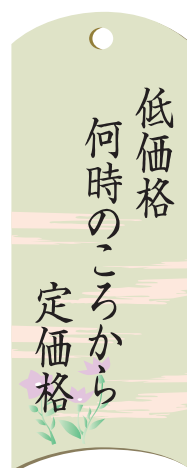
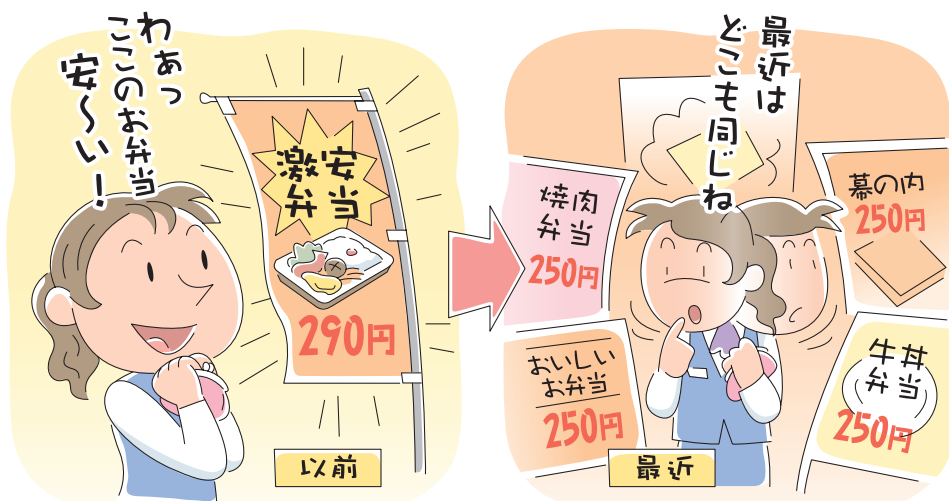
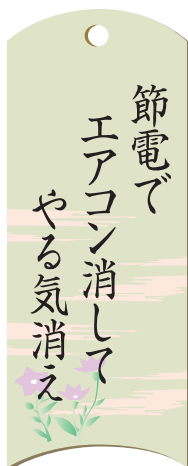
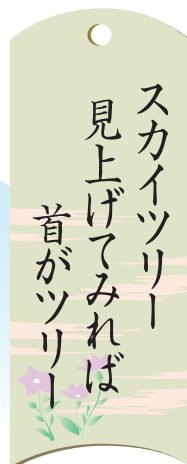
現地で見て・聞いて・触って・感じた状況を基礎情報とし、これまでに携わった経験と、知識、想像力を働かせた上で導き出されます。

この「観察力」、「経験」、「知識」、「想像力」を駆使して、シミュレーションを行う技術は一朝一夕で習得できるものではありません。

私たち技術者は、日頃からより多くの経験を積む事が自己の技術力向上に繋がります。また経験した事を情報共有し、若い技術者等へ伝承することが、技術者の育成に重要であると考えます。これからもこれらの意識を持った上で、業務にあたっていきたいと思います。

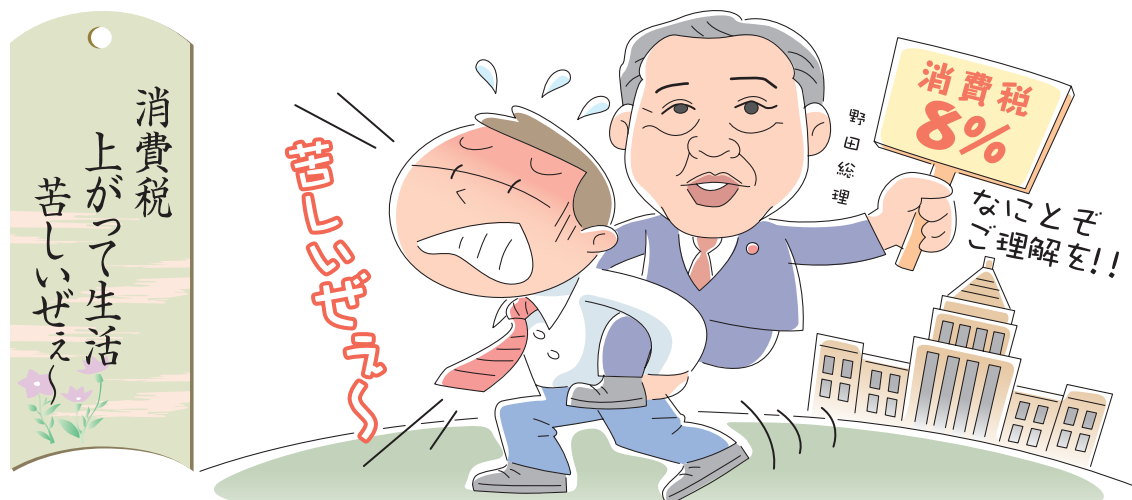


5. クリックコーナー





梅雨前に
ネクタイはずし
夏開襟



五十過ぎ
ねじりハチマキ
再試験

6. 協会活動紹介

総務部会

運営委員会

運営委員長 田中 美範

運営委員会の平成23年度下半期の活動報告、平成24年度の上半期活動予定は以下のとおりです。

【平成23年度下半期の活動報告】

(1) 独禁法遵守講習会について

- 開催日：11月16日（水）愛知県産業労働センター
- テーマ：最近の裁判例における独占禁止法の問題点
- 講師：長谷川 鈺治 弁護士
- 受講者：229名

建コン中部支部、(社)全国上下水道コンサルタント協会中部支部、中部地質調査業協会、及び(社)日本補償コンサルタント協会の4協会に(社)愛知県測量設計業協会を加えた5協会による共同開催。

(2) カルチャーセミナーについて

「建設コンサルタントフェア2011 in 中部」と同時開催

- 開催日：10月30日（土）
名古屋都市センター大研修室
- 基調講演：復興まちづくりと防災、
建設コンサルタントの役割
- 講師：藤井 聡 京都大学大学院教授
- 参加者：101名

(3) その他

- ・文書管理規定に基づく保存データの管理
- ・一般社団法人への移行に伴う事務作業

【平成24年度の主な活動予定】

(1) 独占禁止法遵守講習会について

- ・平成24年11月13日（火）
- 場所：メルパルク名古屋
- 講師：公正取引委員会 5協会による共同開催

(2) カルチャーセミナーの企画、開催

- ・平成24年10月20日（土）
「建設コンサルタントフェア2012 in 中部」との同時開催
- 基調講演：帝京大学教授・
東京都災害対策担当参与 志方俊之氏
- テーマ：「（仮）防災と危機管理」

より有意義な協会運営のため、会員の皆様のご協力をよろしくお願いします。

総務部会

災害対策委員会

災害対策委員長 川口 幸三

災害対策委員会の平成23年度下期の活動報告および平成24年度上期の活動予定は、以下のとおりです。

【平成23年度下半期の活動報告】

(1) 名古屋市との災害時対応訓練の反省を踏まえた打合せ・協議

- 日時：平成23年10月24日（月）
- 場所：名古屋市緑政土木局道路建設課橋梁保全係
- 内容：

①名古屋市橋梁保全係及び建コン協中部支部の「災害時対応訓練」結果について協議

②運用マニュアル（橋梁編）改訂について協議

(2) 名古屋市緑政土木局道路建設課橋梁保全係との打合せ・協議

- 日時：平成24年1月19日（木）
- 場所：名古屋市緑政土木局道路建設課橋梁保全係
- 内容：

①橋梁緊急点検歩掛（案）について協議

②運用マニュアル（橋梁編）改訂について協議

(3) 静岡県との災害支援協定についての打合せ・協議

- 日時：平成23年11月9日（水）
- 場所：建コン協中部支部事務局
- 内容：災害時支援協定締結に向けての協議

(4) 静岡県との「災害又は事故等における設計等業務委託に関する協定」に係る応急対策業務協力者の募集について

- ・支部会員各社に対するアンケートを平成24年3月9日に実施しました。

(5) 上記に係る委員会の開催

【平成24年度上期の活動予定】

(1) 災害時会員連絡名簿の追加、修正、確認および配布

(2) 静岡県との災害時支援協定締結改定に向けての打合せ・協議

- ・アンケート結果を基に支援会社（29社）の名簿を作成
- ・協定締結

(3) 災害演習の実施内容の検討、実施

実施日：平成24年8月31日（金）
災害対策現地本部：九州支部

(4) 名古屋市との災害時緊急応援訓練の内容検討、実施 平成24年9月上旬、他団体との合同訓練を予定

(5) 名古屋市緑政土木局道路建設課橋梁保全係との打合せ・協議

協議内容：①橋梁緊急点検歩掛（案）について

②運用マニュアル（橋梁編）改訂について

(6) 上記に係る委員会の開催

対外活動部会

対外活動委員会

対外活動委員長 榊原 雅彦

3.11東日本大震災が発生し、復興に向けた「新たなまちづくり」が進められていく中で、防災・減災へむけた地域づくりに目が向けられている。中部地方においても東海・南海・東南海地震が近い将来におこりうる可能性が高いとされている。今後は各地域で地域防災に関わる事業展開へと公共事業の方向性にも影響する中で、建設コンサルタントとして、地域の防災・減災に対して確実に業務を通した地域貢献を果たしていくという重大な役割を担っています。

そのような中においても建設コンサルタントをとりまく厳しい状況はかわらないが、更なる品質の向上をめざしていくことが使命と考えます。

中部地方整備局においては、H23年度の評価方式でさらに技術提案に係る比重が増し、技術力の評価が重要視されている。そのような中、対応への課題を集約し、発注者への「要望と提案」活動を通して協会各社の声を伝えてまいりました。

【平成23年度下半期活動報告】

H23年度下半期においては、「建設コンサルタンツ協会中部支部と中部地方整備局との意見交換会」を中心とした活動を実施いたしました。

(1) 地整と支部との実務者意見交換会

- 日 時：平成23年12月7日(水)
16:00～18:00
- 場 所：KKRホテル名古屋 4階 福寿の間
- 参 加 者：中部地方整備局
佐々木企画部長他 7名
中部支部 田部井支部長他 12名
1. 技術力による選定
2. 入札契約に関する運用面での課題
3. 魅力あるコンサルタントに向けて

● 議事概要：

「技術力による選定」においては、更なる技術点重視の選定を提案し、総合評価における評価方法については、絶対評価で実施しているとの回答を得た。また、「ノー残業デーの取り組み」に対する対応についての協力を得られた。

(2) 地域コンサルタント委員会への対応

地域コンサルタントの現状・課題を踏まえた企業像・技術者像として地域社会に貢献する将来像とした検討結果を報告書としてとりまとめた。

(3) 建設技術フェアへの人的支援

10月26日、27日両日に人的支援を実施した。

【平成H24年度の主な活動予定】

H24年度においても、「建設コンサルタンツ協会中部支部と中部地方整備局との意見交換会」を中心とし、発注者とのパイプ役としての活動を実施していきます。

- (1) 本部と中部地方整備局「要望と提案」
- (2) 中部地方整備局と支部の実務者による意見交換会
- (3) 本部と中部支部との「要望と提案」意見交換会
- (4) 地域コンサルタント委員会対応
- (5) 建設技術フェアin中部への対応
その他各地域における関係機関との連絡調整等

最後に、関係各位様のご協力及びご意見・ご要望が活動の源となります。今後とも何卒ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



対外活動部会

編集委員会

編集委員長 中村 卓生

【編集委員会の主な活動は次のとおりです】

編集委員会の活動は、広報誌「図夢in中部」を年2回（1月、8月）編集・刊行することにより、中部支部における諸活動の状況及び新規事業等を主に、建設コンサルタントに関する各種の情報を会員各社及び官庁、大学の方々に提供しています。

【平成23年度の活動報告】

◇「図夢in中部 Vol.27 Vol.28」の発刊

平成23年8月は27号、平成24年1月には28号の発刊に向けて編集を行いました。

- 27号の特集は、「三六災害から50年」～災害を風化させず、教訓として後世へ～というテーマで天竜川上流河川事務所副所長の岩間登様に執筆していただき、災害の実態の再認識、災害に備えた地域づくりの大切さを伝えていただきました。
- 28号は特集として名古屋ライオンズクラブの服部宏様に「名古屋・堀川を舞台に活発化する堀川1000人調査隊の活動」を執筆していただき、官民の協働によって見事に再生した事例紹介でした。



図夢 in 中部 Vol.27



図夢 in 中部 Vol.28

【平成24年度上半期の活動予定】

◇「図夢in中部 Vol.29」の発刊（平成24年8月）
上半期は29号の編集・発刊を行います。

- 29号は特集として「NPO知多から世界へ」副理事長の磯貝徹様より活動内容を執筆いただきます。

編集委員会では、中部支部の活動状況や情報を「図夢in中部」とHPを通じて紹介しています。

(<http://www.ccainet.org>)

今後も会員皆様からのご支援を頂き、活動状況をわかりやすく、親しみやすい内容で提供していきたいと考えています。

対外活動部会

事業広報委員会

事業広報委員長 高木 智

【平成24年度上半期の活動予定】

事業広報委員会の役割は、建設コンサルタントという職業に関する知名度のアップ、中部支部会員の発注者等への対外的なPRに加え、「社会貢献活動」を通して一般の方々へのPRも、ミッションとして活動しています。

具体的な活動は、①「名古屋打ち水大作戦」への参加 ②「建設コンサルタントフェア」の開催 ③「会員名簿」・広報誌「図夢in中部」の関係者配布に併せ当協会へのご理解・ご協力等助成支援を柱に活動します。

平成24年度上期は段取り等の準備期間です。毎月1回の委員会を開催し、これらの活動の企画を練っています。

【今後の活動予定】

①「名古屋打ち水大作戦」へ参加予定

協会として毎年参加しているイベントで、市民が一体となって「打ち水」を実施することでヒートアイランド現象を緩和させ、粉塵の抑制につなげ、さらには地域コミュニティの醸成や世代間交流の促進など地域住民の心に潤いを与えるイベントです。

実施時期は、8月中旬を予定しています。（本誌発行時には、決定していると思います。）

参加者はハッピーを着用し、のぼりを立てて「打ち水参加」を通行人や地域住民へ呼びかけと、「打ち水」による「外気温低下」を体感します。

②建設コンサルタントフェア」の開催

「建設コンサルタントフェア」は、一般の方々、例えば、学生や主婦、子供たちを対象に、建設コンサルタントの役割や仕事の内容を理解してもらう知名度アップのイベントで、現在その企画中です。

昨年は10月30日（日）に開催し300名以上の一般の方々に建設コンサルタントの役割等をパネルにて見学して頂きました。今年も開催する予定です。是非、来訪してください。

●開催予定日：平成24年10月20日（土）

●開催内容、場所と時間（予定）：

金山総合駅コンコース／

建設コンサルタントの役割等のパネル展示

10時から16時

名古屋都市センター特別会議室／

講演会 13時から16時



平成23年度のフェアの様子

③広報誌等関係者配布

「会員名簿」（年1回）・広報誌「図夢in中部」（年2回）を国、県、市町村、ネクスコなど発注機関の関係者に1500部配布し、当協会へのご支援・ご協力をお願いする機会にしております。

CALS/EC委員会

CALS/EC委員長 北島 寿男

CALS/EC委員会では、CALS/ECに関する情報の収集と提供、対応状況の把握、および関係機関との連絡調整等を通じ、支部会員におけるCALS/EC対応支援を目的とした活動を行なっています。

【昨年度下半期の活動報告】

- 本部CALS/EC委員会開催会議への参加本部で開催された支部連絡会議に参加し（平成23年10月）、情報・意見交換を行いました。

●CADセミナー2011の開催

CADセミナー2011を平成23年11月に開催しました。



「CADセミナー2011」(11/18)

【平成24年度の活動予定】

●GIS講習会の開催

本部CALS/EC委員会との連携による情報提供（GIS講習会：SIS初級・中級：7/5,6及びArc初級・中級：7/10,11）

●CADセミナー2012の開催

CADセミナー：11月頃－詳細未定

●本部CALS/EC委員会との意見交換等

本部委員会との連絡調整（支部連絡会議等）

●CALS/EC講師派遣

なお、当委員会への要望などございましたら、メールで気軽にお寄せ下さい。

(CALS/EC委員会メールアドレス: calsec@ccainet.org)

情報委員会

情報委員長 松永 善晴

情報委員会では、会員企業様への情報発信や、支部内における情報インフラの整備と円滑な運営を目指して継続的に活動を行っています。

【昨年度下半期の活動報告】

- 第7回フォトコンテストに応募いただいた作品の中から、12月に優秀作4点、秀作4点を選定し、ホームページにアップしました。
- IT関連アンケートを実施しました。平成24年度の報告に向けて現在最終とりまとめを行っています。
- 情報セキュリティ講習会を本部情報セキュリティ専門委員会主催のもとで12月に開催しました。

【平成24年度の活動予定】

●ホームページの運用管理

(1) 図夢in中部のHPへの掲載

中部支部広報誌の図夢in中部を継続的にアップ予定です。

(2) 各種情報の掲載

建設コンサルタンツ協会中部支部からのお知らせや、各種行事の案内等の情報を掲載します。

●講習会の開催

本部の情報セキュリティ専門委員会の活動にあわせ講習会の開催を予定しています。

●フォトコンテストの開催

例年実施していますフォトコンテストを7月から応募案内予定です。ホームページに優秀作、秀作それぞれ4点掲載予定です。

●IT関連情報発信

昨年度実施したアンケート調査結果の分析を進め、今年度中に報告書を作成予定です。

なお、当委員会への要望などございましたら、メールで気軽にお寄せ下さい。

(情報委員会メールアドレス: johou@ccainet.org)

第8回フォトコンテスト作品募集

建コンホームページで私たちの活躍をアピールしてみませんか!

応募締切 2012年10月31日(水)

～これまでの優秀作品～



募 集 要 項 秀作は、協会中部支部ホームページにて紹介させていただきます。また、秀作の中から優秀作を選定し、賞品(商品券等)を贈呈させていただきます。

テ ー マ 「中部における魅力的な土木施設」

※東海エリア【愛知、岐阜、三重、静岡、長野(中部地方整備局管内)】を対象範囲とします。

応 募 要 領 応募資格は、協会会員(中部支部に限ります)。
応募作品は、デジタルデータ(jpeg形式)で、未発表・応募者が著作権を有するものに限ります。
また、加工・修正などの処理を行っていないものに限ります。

応 募 締 切 2012年10月31日(水)(必着)

応 募 方 法 応募・お問合先のメールアドレスにデジタルデータ(jpeg形式)として送信してください。
メールタイトルは、「フォトコンテスト」としてください。
メール本文には、以下の事項を記入してください。なお、応募は1人4点以内とします。
(1)氏名 (2)勤務先、連絡先電話番号 (3)撮影日、撮影場所 (4)簡単なコメント(テーマ)

審 査 発 表 発表は、11月末を予定しています。
採用者には、本人にメールで連絡する他、協会ホームページ・協会誌等で発表いたします。

注 意 事 項 秀作・優秀作はホームページにて紹介させていただく以外に、必要に応じて協会で使用する場合があります。

応募・お問合先 以下のアドレスに電子メールでお願いいたします。
一般社団法人 建設コンサルタンツ協会中部支部 情報部会情報委員会
johou@ccainet.org

道路委員会

道路委員長 長屋 俊人

【道路委員会の活動紹介】

道路委員会では、講習会・見学会・講師派遣等、各種活動を通じて道路関連事業の設計・管理に従事する技術者が、様々な活動を通じて技術力の向上を図り、併せて会員相互の親睦を図ることを目的として活動を行いました。

1. 道路委員会

委員会を11月～12月の間に2回開催し、講習会、見学会、講師派遣等の企画、運営について協議しました。

2. 平成23年度下期の道路委員会の活動報告

(1) 第2回技術講習会

- 開催日：平成23年11月16日（水）
13:55～17:05
- 場所：建設コンサルタンツ協会
中部支部 会議室
- 参加者：20社35名
- 講習会内容：
演題①：液状化対策工法について
講師：鵜野 雅明 氏
(SAVEコンポーザー工法研究会
技術委員／所属（株）不動産トラ)
- 演題②：東日本大震災における
テールアルメ壁被災調査
講師：酒井 茂賀 氏
(日本テールアルメ協会会員／
所属 JFE商事テールワン（株）)
大谷 義則 氏
(日本テールアルメ協会会員／
所属 ヒロセ（株）)



技術講習会の状況

3. 平成24年度上期の道路委員会の主な活動予定

(1) 平成24年度道路検討グループ総会

- 開催日：平成24年6月29日（金）
14:00～16:40
- 場所：ウインクあいち（愛知県産業労働センター）
12F 1204会議室
- 内容：平成23年度総括と平成24年度事業予定
平成24年度建設コンサルタンツ業務技術
発表会に向けて

特別講演

テーマ：「日本におけるラウンドアバウトの適用と課題」
講師：名古屋大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻
中村 英樹 教授、工学博士

(2) 技術講習会

- 日時：8月と11月に開催予定
- 講習内容：「防災、耐震、災害復旧、リサイクル、
次世代エネルギー等」（予定）

(3) 現場見学会

- 日時：9月頃に開催予定
- 場所：（未定）

(4) 業務技術発表会

- 日時：平成24年10月3日（水）
- 場所：ウインクあいち
(愛知県産業労働センター)
(4委員会合同、今年度構造土質委員会が幹事)



技術部会

河川委員会

河川委員長 風間 喜章

河川委員会では、二つの分科会で実施する専門技術に関する交流活動、現地見学会、技術セミナーの開催、技術発表会への参加等を通じて、会員の皆さんの技術交流と情報交換を図り、コンサルタントの地位向上ならびに河川業務の円滑な実施のための環境作りを目指し、活動していきます。

平成23年度は当会員へ、29社166名のご登録をいただいております。

以下に昨年度の主な活動及び本年度の活動予定についてご報告します。

1. 平成23年度の主な活動報告

(1) 河川委員会

委員会は平成23年4月から12月までに計8回の委員会を開催し、活動方針、河川技術に関するトピックス、各分科会報告、対外活動等の準備と活動、会計報告等について議論しました。なお、第4回の河川意委員会は、台風6号の影響により、中止しました。

(2) 平成23年度河川委員会総会

平成23年度河川委員会総会は、平成23年7月6日、今池ガスビルで58名（19社）の参加を頂き開催しました。

- 開催日：平成23年7月6日（水）
14:20～19:10

- 会場：今池ガスビル

- 参加人数：58名（19社）

- 内容：

Ⅰ 総会

①平成22年度活動報告 ②平成23年度活動計画

Ⅱ 講演会（参加58名）

『東日本大地震における津波被害』

名古屋工業大学大学院教授 喜岡 渉 氏

Ⅲ 交流会



総会の様子



喜岡渉教授による講演

(3) CommonMP-GIS入門講座 講習会の開催

2007年度より開発が進められてきた水・物質循環解析ソフトウェア共通プラットフォーム（CommonMP）が実用段階に入ってきたことを受け、河川委員会はCommonMP及びCommonMP-GISの普及、利用者の理解促進のために、PCを用いた演習形式の講習会を実施しました。

●開催日：

平成23年8月23日（火）10:00～16:30

（国土交通省職員対応）

平成23年8月24日（水）10:00～16:30

（建設コンサルタント対応）

●場所：

愛知県産業貿易会館（国土交通省職員対応）

愛知県産業労働センター（建設コンサルタント対応）

●主催：

国土交通省 中部地方整備局

（国土交通省職員対応）

（社）建設コンサルタンツ協会 中部支部 技術部会

（建設コンサルタント対応）

●講師：

中部地方整備局 水災害予報センター

（社）建設コンサルタンツ協会 河川計画専門委員会

●参加者：

平成23年8月23日（12事務所、20名）

平成23年8月24日（9社、14名）

(4) 第21回建設コンサルタント業務技術発表会

平成23年10月5日に開催された、平成23年度 第21回建設コンサルタント業務技術発表会において、河川委員会では8編の論文提出と発表を行い、最優秀賞と優秀賞をいただきました。

【最優秀賞】

「植生消長と砂州移動を有する礫床河川における効率的な河道改修を行うモデルの適用方法の提案」

工藤 真（株式会社建設技術研究所）

【優秀賞】

「動的解析を用いた津波対策施設の設計」

浅野 雄史（中央コンサルタンツ株式会社）

【優秀賞】

「数値解析による遊水地への流入特性の検討」

川本 一喜（三井共同建設コンサルタント株式会社）

(5) 河川技術セミナー

平成23年12月7日に「平成23年度河川技術セミナー」
として、国土交通省国土技術政策総合研究所河川研究部
河川研究室の服部敦室長、京都大学防災研究所の寶馨教
授を講師にお招きし、67名（会員47名、公官庁・一般
20名）の参加を頂き開催しました。

- 開催日：平成23年12月7日（水）
13:30～17:00
- 場所：ウインクあいち（愛知県産業労働センター）
- 講師・演題：
〈河川技術セミナーの講演内容〉

講演内容	講 師
「河川管理に関する 最近の取り組み」	国土交通省国土技術 政策総合研究所河川 研究部河川研究室 服部 敦 室長
「河川の防災と危機管理」	京都大学防災研究所 寶 馨 教授

(6) 愛知県と三重県への研修会

愛知県と三重県の河川計画実務研修として、愛知県
では5テーマに対し5講師、三重県では1テーマに対し
1講師を派遣しました。

〈愛知県と三重県の研修内容〉

	研修内容	開催日
三重県	河川に係る主要な河川構造物について、 河川管理上必要とする技術基準の習得	H23.9.27
愛知県	環境管理 講 座 公共工事と環境	H23.11.9
	自然環境再生工法	
	河川計画 実務研修 水文観測とデータ処理演習	H23.8.17
	洪水処理計画・河道計画演習	
	河川管理施設等構造令/解説と演習	H23.8.18

(7) 分科会活動

[第1分科会（河川計画・環境）]

- 開催日：平成23年10月17日（月）
14:30～16:30
- 会場：愛知県産業労働センター 1206号室
- 講師：中部大学工学部都市建設科
武田 誠 准教授
- 講演：「都市水害軽減に向けての研究事例紹介」
- 参加者：23名（12社）

中部大学工学部都市建設科の武田誠准教授を招き、
『都市水害軽減に向けての研究事例紹介』をテーマに
講演をしていただきました。

基礎編として「氾濫解析の基礎知識」である基礎方
程式の解説やモデリングにおける留意点などを丁寧に
説明していただきました。その後、都市域における氾
濫解析の事例紹介として、モデルの概念、課題と対処
法、精度向上への試みなど、非常に分かりやすく説明
していただきました。その後の質疑応答では活発な意
見交換がなされ、特に氾濫解析モデルの精度向上に関
して、今後の実務に役立つアドバイスを多くいただく
ことができました。



武田准教授による説明の様子

[第2分科会（河川構造計画・設計）]

- 開催日：平成23年11月2日（水）
15:00～17:00
- 会場：建設コンサルタンツ協会中部支部 会議室
- 講師：ケミカルグラウト株式会社
初山 幸治 氏
- 講演：「河川における地盤改良」
- 参加者：19名（10社）

ケミカルグラウト株式会社の初山幸治氏を招き、「河
川における地盤改良」をテーマに講演をしていただきま
した。

東日本大震災による関東地方での被災状況について、
河川堤防に加えて、茨城の常陸那珂港、浦安地区等の埋
立地の液状化を例に写真を用いたリアルな説明、紹介を
頂きました。また、東日本大震災が発生する前に施され
た荒川の堤防耐震対策、川崎港海底トンネル液状化対策
の対策効果についても説明いただきました。

河川における地盤改良工法の説明については、「河川
堤防耐震対策緊急検討委員会」の公開情報を基に、河川
堤防に適用可能な各
種工法を幅広く説明
いただくとともに、
固化処理工法（薬液
注入、機械攪拌、高
圧噴射攪拌工法）を
中心に工法の概要、
適用性等について詳



初山幸治氏による説明の様子

細に説明いただきました。その後の講義内容に対する質疑応答では、多数の方からの質問があり、関心の高さを伺うことが出来ました。

(8) 河川見学会

- 実施日：平成23年11月25日（金）
- 場 所：三重河川国道事務所管内 宮川川端河道
掘削工事現場（三重県伊勢市）
- 参加者：11名（10社）

現場見学会では、事業概要から、建設ICTの概要、実際に工事に使っているICTバックホウ技術、並びにICT設計データの作成について、三重河川国道事務所のほか、施工業者である（株）森組、ICT技術・重機を提供されている（株）建設システム、（株）アクティオから詳細な説明を受けました。

2. 平成24年度の主な活動予定

- ①委員会活動：4～12月の間で9回開催予定
- ②平成24年度河川委員会総会
 - 開催日：平成24年7月5日（木）
 - 場 所：今池ガスビル7F B会議室
 - 講 演：「リスク認知と自主防災行動とハザードマップ」
 - 講 師：岐阜大学工学部社会基盤工学科教授
岐阜大学社会資本アセットマネジメント
技術研究センター長 高木 朗義 氏
- ③河川技術セミナー
 - 年1回、11月下旬～12月初旬に開催予定
- ④第1分科会と第2分科会及び現地見学会
 - 分科会は年2回開催予定
 - 現地見学会は年1回実施予定
- ⑤講師派遣
 - 愛知県技術研修の講師派遣：8～11月、5講習、5講師
- ⑥広報（研究会たより）
 - 年2回発行予定

技術部会

構造土質委員会

構造土質委員長 安藤 健司

構造土質委員会では、見学会や技術講習会の開催を通じて、会員の皆様の技術研鑽や会員相互の交流ならびに新技術情報の共有等により、橋梁を中心とした構造物に関わるコンサルティングエンジニアとしての資質向上を目的として、委員長以下15名にて活動しています。

また、平成24年度の構造土質検討グループへは、36社147名と多くの方々にご登録いただき、ありがとうございました。

以下に昨年度の主な活動、及び本年度の活動予定についてご報告します。

1. 平成23年度の主な活動報告

(1) 委員会活動

平成23年度は、4月～12月の間に計9回開催し、役員会・技術部会報告、中部地整品質向上委員会など対外活動報告、総会企画、講習会・見学会の立案、講師派遣の検討などについて協議しました。

(2) 平成23年度技術部会構造土質委員会総会

- 開催日：平成23年6月22日（水）
14:00～16:40
- 会 場：ウインクあいち
（愛知県産業労働センター）小ホール
- 参加者：23社46名
- 内 容：
 - ① 平成22年度活動報告
 - ② 平成23年度活動計画
 - ③ 講演 「東北地方太平洋沖地震から学ぶ
～海溝型巨大地震に備えて～」
講師／国立大学法人 岐阜大学 理事・副学長
杉戸 真太 教授
講演は道路検討グループと合同で開催しました。



総会の様子



講演会の様子

(3) 現場見学会

平成23年度は、技術講習会と現場見学会をかねて、午前中を現場見学会、午後を技術講習会とした、現地研修会を開催しました。

当日は快晴の中、国内最大級の波形ウェブ張り出し橋（豊田巴川橋）や、デザインビルト方式による大型PC橋（郡界川橋）を見学しました。また、現場見学終了時に技術講習会を実施し、ディスカッション方式で質問・意見等が活発に出され、大変有意義な時間になりました。

- 開催日時：平成23年9月28日（水）
9:00～18:30
- 内 容：午前：PC橋現場見学会
午後：PC橋に関する技術講習会
- 見学場所：新東名高速道路 豊田巴川橋PC上部工工事
群界川橋PC上下部工工事
- 技術講習会会場：フォレストヒルズ
- 参 加 者：13社26名
- 講 師：（社）プレストレストコンクリート建設業協会
- 現場見学内容：
国内最大級の波形鋼板ウェブPC橋梁張出架設現場
デザインビルト方式による大型PC橋施工現場



豊田巴川橋



現場見学の様子



現場見学の様子



現地研修会参加者

- 技術講習会内容：
 1. PC押し出し架設工法について
 2. PC橋に関する最近の技術動向について
 3. PC橋における設計照査のポイントについて
 4. PC橋の架設計画について



講習会の様子

(4) 技術講習会

平成23年度の技術講習会は、鋼橋およびPC橋の長寿命化に関するテーマで開催しました。

- 開催日時：平成23年11月30日（木）
13:20～16:45
- 開催場所：名古屋市工業研究所
- 参 加 者：29社49名
- 内 容：
 - ①「鋼橋の補修・補強」
講師：（社）日本橋梁建設協会 亀山 誠司 氏
 - ②「鋼橋の長寿命化とライフサイクルコスト」
講師：（社）日本橋梁建設協会 中垣 亮二 氏
 - ③「PC橋の補修・補強技術」
講師：（社）プレストレストコンクリート建設業協会 今尾 勝治 氏
 - ④「PC橋の長寿命化技術」
講師：（社）プレストレストコンクリート建設業協会 藤原 保久 氏



講習会の様子

(5) 社会貢献活動

建設コンサルタンツフェア in 中部への参加

- 開催日時：平成23年10月30日（日）
- 開催場所：金山総合駅コンコース、
名古屋市都市センター大研修室

金山駅総合コンコースでは、「建設コンサルタントは、安全・安心なくらし、防災、に貢献します」のキャッチフレーズとして、橋梁計画、橋梁設計に関わるパネルを5枚、耐震補強に関わるパネルを3枚展示し、建設コンサルタントの役割について紹介しました。

技術部会

都市計画委員会

都市計画委員長 小中 達雄

(6) 業務技術発表会（担当：道路委員会）

技術部会主催による4委員会合同行事として実施しました。

- 開催日時：平成23年10月5日（水）
 - 開催場所：ウインクあいち（愛知県産業労働センター）
 - 参加者：164名
- 構造土質関係より5編

①橋梁耐震補強

内藤 浩一 氏（日本工営株式会社）

②橋梁点検における点検困難箇所の克服

萩原 明伯 氏（三井共同建設コンサルタント株式会社）

③既設橋の損傷状況を踏まえた

上路式アーチ橋の耐震補強設計

神谷 建寛 氏（中央コンサルタンツ株式会社）

④既設ケーソン基礎の耐震補強に関して

榎井 敦 氏（株式会社オリエンタルコンサルタンツ）

⑤軟弱地盤上に架橋する幅員変化を伴う橋梁計画

樋口 雅友 氏（中日本建設コンサルタント株式会社）

このうち、神谷氏、榎井氏が優秀賞を受賞しました。

(7) 講師派遣

平成23年度は、中部地整へ1講座1名、愛知県へ10講座延べ14名、三重県へ1講座1名の講師を派遣しました。

2. 平成24年度の主な活動予定

(1) 委員会活動

4月～12月の間で9回開催予定です。第1回、第2回は5月1日、5月30日に実施済みです。

(2) 平成24年度 構造土質検討グループ総会

- 開催日時：平成24年7月13日（水）
- 開催場所：名古屋市工業研究所
電子技術総合センター内 視聴覚室
- 内 容：昨年度活動結果および今年度活動計画報告
- 講演：「東日本大震災の被災構造物の1年後
ー構造物の復旧に関する時間軸上での分析ー」
- 講師：国立大学法人 名古屋大学大学院工学研究科
社会基盤工学専攻 國枝 稔 准教授

(3) 技術講習会

今年度は技術講習会を2回開催予定です。講習会テーマは今後検討していきますが、道路橋示方書の改訂に関わるテーマを考えています。

第1回：平成24年9月下旬予定

第2回：平成24年11月下旬予定

(4) 現場見学会

平成24年10月下旬に開催を予定しています。

(5) コンサルタント業務技術発表会

今年度は構造土質委員会が幹事委員会として、4委員会合同行事として開催します。

- 開催日時：平成24年10月3日（水）
- 開催場所：ウインクあいち（愛知県産業労働センター）

(6) 講師派遣

・愛知県の技術研修に講師派遣
（平成24年9、10月） 延14名

都市計画委員会では、都市整備WG、交通WG、ランドスケープWGの3つのWGで実施する専門技術に関する交流活動、見学会や講習会の開催等を通じて、会員の皆さんの技術交流と情報交換を図るとともに、（一社）建設コンサルタンツ協会中部支部の活動を推進することによって、コンサルタントの地位向上ならびに都市計画業務の円滑な実施のための環境作りを目指し、活動しております。なお、平成23年度の都市計画検討グループへは、107名（26社）のご登録をいただきました。

1. 平成23年度の主な活動報告

平成23年度の主な活動は、以下のとおりです。

◆ワーキング活動に向けた意見交換会

3WGを合同開催

◆都市計画検討グループ 総会

◆業務技術発表会

◆見学会（交通WG主催）

◆講習会（都市整備WG主催）

◆社会貢献活動（金山総合駅コンコース他）

◆ワーキング活動

ランドスケープワーキング（現地見学会）

都市整備ワーキング（講習会）

◆都市計画委員会

(1) ワーキング活動に向けた意見交換会

平成23年度のワーキング活動（見学会、講習会等）について、検討グループメンバーに集まっていたいただき、意見交換を行いました。

- 開催日：平成23年5月18日（水）
15：00～17：00

●会場：建コン協中部支部会議室

●参加人数：28名（12社）

(2) 都市計画検討グループ総会・交流会

平成23年度都市計画検討グループ総会を、名古屋都市センターで54名の参加を頂き開催しました。

- 開催日：平成23年6月22日（水）
13：30～16：30

●会場：名古屋都市センター 大研修室

●参加人数：54名（19社）

●内 容：

Ⅰ 総会

①平成22年度活動報告 ②平成23年度活動計画

Ⅱ 講演会

「なぜ「想定」できないか」

～東日本大震災における社会基盤の

機能低下と市街地の被災を受けて～

名古屋工業大学大学院 産業戦略工学専攻

秀島 栄三 准教授



総会の様子



秀島准教授による講演

(3) 業務技術発表会

平成23年度の技術部会業務技術発表会は、164名の方に参加頂きました。

- 日 時：平成23年10月5日(水)
13:30~16:40
- 場 所：ウインクあいち（愛知県産業労働センター）
- 参加者：164名
〈都市計画関連から3編〉
- ① 河畔砂丘の保全と活用に向けた河川敷公園の設計
……佐々木哲也（中央コンサルタンツ株式会社）
- ② 「1：25,000岐阜県活断層図」の作成
……内田主税（玉野総合コンサルタント株式会社）
- ③ 既存市街地における
次世代エネルギーインフラの導入可能性調査
……森田紘圭他4名（大日本コンサルタント株式会社）

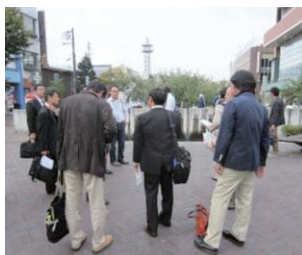
(4) 見学会

飯田市では、昭和22年の大火を経験しましたが、火災復興土地区画整理事業等により復興を果たし、現在も市民、企業、行政のパートナーシップのもとに積極的に中心市街地のまちづくりを展開しています。一方、2009年に環境モデル都市の認定を受け、「環境文化都市・飯田」を目指し、先駆的な取り組みを実践しています。これらの取り組みについて、現地視察および飯田市職員による講習会によって体感しました。飯田市職員の方の熱意ある取り組みや説明をお聞きするとともに、参加者からも積極的な質疑があり、有意義な講習会となりました。

- 開催日時：平成23年10月21日（金）
8：30～18：30
- 訪 問 先：飯田市役所りんご庁舎（講習会）
- 見 学 地：メガソーラーいいだ（おひさまの丘）
飯田市中心市街地地区
- 参加者数：20人（12社）



講習会の様子



見学会の様子

(5) 都市計画技術講習会

平成23年度は、東日本大震災の発生や今後起こりうるであろう東海・東南海地震を見据え、「事前復興計画のススメ……この国の明日を紡ぐ」をテーマに、関西学院大学災害復興制度研究所教授山中茂樹氏をお招きし、ご講演をお願いするとともに、パネルディスカッションにより意見交換を行いました。特に講演では、「復興」と「復旧」の違いから始まり、「被害想定」「脆弱性の発見」「復興ビジョン」「復興プロセス」「計画手法」について説明をしていただき、事前復興計画の重要性・必要性について学び有意義な講習会となりました。

- 日 時：平成23年11月15日(火)
13：30～16：40
- 場 所：名古屋都市センター 大研修室
- 参加者：27名（10社）
- 講 師：関西学院大学災害復興制度研究所
山中 茂樹 教授



講習会の様子



パネルディスカッション

(6) 社会貢献活動（金山総合駅コンコース他）

今年も昨年度同様、金山総合駅コンコースと名古屋都市センターで平成23年10月30日（日）に「建設コンサルタンツフェアin中部」が開催されました。このイベントは、建設コンサルタント事業に関する最新情報、くらしと建設コンサルタントの関わりを一般の方々に紹介し、建設コンサルタントのイメージアップを図ることを目的としたものです。

都市計画委員会は、「みんなが楽しく、快適に暮らせる明日の「まち」を考えています」をテーマに紹介いたしました。

(7) ワーキング活動

[ランドスケープWG]

ランドスケープWGでは、土木学会デザイン賞(2008)を受賞した各務原市「学びの森」にて公園実施設計を担当した岡部氏（大同コンサルタンツ株式会社）から、設計思想の説明を直接お聞きしながら公園を散策し、今後の公園緑地のあり方について、意見交換しました。

- 開 催 日：平成23年11月22日（火）
15：00～16：20
(懇親会会場においてさらに意見交換)
- 会 場：各務原市「学びの森」（地区公園）
- 参加人数：14名（11社）
- 講 師：大同コンサルタンツ株式会社
岡部 好伸 氏（設計者）



岡部氏による説明



現地見学会の様子

〔都市整備WG〕

都市整備WGでは、産業防災に注目し、事業継続計画（BCP）における地域計画・まちづくりのあり方を、名古屋産業大学大学院環境マネジメント研究科石橋健一准教授をお招きし、講義していただきました。講義では、東日本大震災や台風15号の災害発生状況に始まり、東南海・南海地震発生時の被害想定、地震防災戦略、事業継続計画の策定までを、シミュレーションデータ等を活用して説明していただき、また、参加者からの質疑にも対応していただき有益な講習会となりました。

- 開催日：平成23年12月7日（水）
15：00～17：00
- 会場：建設コン協中部支部会議室
- 参加人数：14名（8社）
- 講師：名古屋産業大学大学院
環境マネジメント研究科

石橋 健一 准教授



石橋准教授による講演



講習会の様子

（8）都市計画委員会

委員会は平成23年4月～平成24年1月まで10回開催し、総会や見学会・講習会等の企画・運営、各WGの活動について協議しました。また、「都市計画たより」を2回発行いたしました。

2. 平成24年度の主な活動予定

平成24年度の都市計画検討グループへは、99名（28社）のご登録をいただきました。

平成23年度はワーキング主体の活動を行ってきましたが、平成24年度はさらにワーキング主体の活動に重点を置き活動してまいります。

（1）ワーキング活動に向けた意見交換会（開催済）

- 開催日：平成24年5月31日（木）
15：00～17：00
- 会場：建設コン協中部支部会議室
- 参加人数：20名

平成24年度の活動について意見交換を行いました。

（2）都市計画検討グループ総会・交流会

平成24年度都市計画検討グループ総会を、名古屋都市センターで開催します。

- 開催日：平成24年7月3日（火）
13：30～16：45
- 会場：名古屋都市センター 大研修室
- 内容：平成23年度活動報告と
平成24年度活動方針
- 講演：阪神・淡路ならびに東日本大震災から学ぶ
緊急対応と社会資本整備
- 講師：名古屋工業大学 名誉教授 山本 幸司 氏

（3）見学会

平成23年度は開催時期が遅くご迷惑をおかけした反省を踏まえ、平成24年度は皆様が参加しやすい時期に見学会を開催いたします。

- 開催日：平成24年9月中旬～下旬
- 訪問地：彦根市・近江八幡市

（4）各WG活動

WG活動としては、各WG独自で意見交換会の意見を踏まえ見学会・講習会を企画します。

（5）都市計画委員会

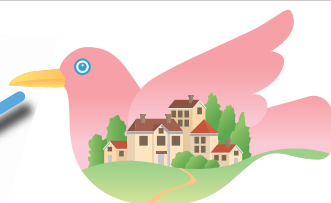
委員会は平成24年4月～平成25年1月まで10回開催し、総会や見学会等の企画・運営、各WGの活動について協議します。

7. 会員名簿一覧表

会社名	所在地	電話番号	URL
(株)アイエスシイ	名古屋市昭和区福江2-9-33(nabi/白金2F)	052-882-1201	http://www.isc-ngo.co.jp/
(株)葵エンジニアリング	名古屋市中村区佐古前町22-6	052-486-2200	http://www.aoi-eng.co.jp/
朝日航洋(株)	名古屋市東区東大曽根町12-19(OZヒメノビル)	052-930-3431	http://www.aeroasahi.co.jp/
アジア航測(株)	名古屋市北区大曽根3-15-58(大曽根フロントビル3F)	052-919-0155	http://www.ajiko.co.jp/
アmanoコンサルタント(株)	岡崎市青木町22-5	0564-45-2445	http://www.amano-c.com/
アローコンサルタント(株)	名古屋市北区如意3-62	052-901-7050	http://www.arrow-c.co.jp/index.html
(株)石田技術コンサルタンツ	小牧市東新町50	0568-73-1085	http://www.itcnet.co.jp/
いであ(株)	名古屋市港区入船1-7-15	052-654-2551	http://ideacon.jp/
(株)イビスク	岐阜県大垣市築捨町3-102	0584-89-5507	http://www.ibisoku.co.jp/
(株)エイト日本技術開発	名古屋市中区栄3-10-22(東朋ビル5F)	052-262-9901	http://www.ejec.ej-hds.co.jp/
NTCコンサルタンツ(株)	名古屋市中区千代田2-16-10	052-261-1321	http://www.ntc-c.co.jp/
応用地質(株)	名古屋市守山区瀬古東2-907	052-793-8321	http://www.oyo.co.jp/
(株)オオバ	名古屋市中区錦1-19-24(名古屋第一ビル)	052-219-0083	http://www.k-ohba.co.jp/
(株)大增コンサルタンツ	名古屋市中川区小本2-14-5	052-363-1131	http://www.ohmasu.co.jp/
(株)オリエンタルコンサルタンツ	名古屋市中村区名駅南2-14-19(住友生命名古屋ビル)	052-564-7711	http://www.oriconsul.com/
(株)カギテック	三重県松阪市田村町341-1	0598-23-1155	http://www.kagitec.com/
(株)梶川土木コンサルタント	刈谷市高倉町4-508	0566-24-6606	http://www.k-cc.co.jp/
(株)片平エンジニアリング	名古屋市東区代官町35-16(第一富士ビル)	052-930-3701	http://www.katahira.co.jp/
(株)カナエジオマックス	名古屋市中区千代田1-12-5	052-249-9611	http://www.kanal.co.jp/
川崎地質(株)	名古屋市名東区高社1-266(ラウンドスポットー社5F)	052-775-6411	http://www.kge.co.jp/
(株)神田設計	名古屋市西区花の木1-3-5	052-522-3121	http://www.kanda-s.co.jp/
基礎地盤コンサルタンツ(株)	名古屋市西区菊井2-14-24	052-589-1051	http://www.kiso.co.jp/
(株)橋梁コンサルタント	名古屋市中村区名駅南1-16-30(東海ビル4F)	052-582-6886	http://www.kyoryo.co.jp/
協和設計(株)	清須市西市場3-4-3	052-401-0751	http://www.kyowask.co.jp/
協和調査設計(株)	名古屋市西区名西1-17-21	052-982-8027	http://www.ky-cs.co.jp/
(株)近代設計	名古屋市中区錦1-5-27(第41オーシャンビル)	052-232-0921	http://www.kindai.co.jp/
(株)建設環境研究所	名古屋市中区錦1-11-20(大永ビル)	052-218-0666	http://www.kensetsukankyo.co.jp/
(株)建設技術研究所	名古屋市中区錦1-5-13(オリックス名古屋錦ビル15・16F)	052-218-3833	http://www.ctie.co.jp/
(株)建設コンサルタントセンター	静岡市清水区長崎新田123	054-345-2155	http://kencon.jp/
(株)興栄コンサルタント	岐阜市中鷺4-11	058-274-2332	http://www.koei-con.co.jp/
(株)国際開発コンサルタンツ	名古屋市東区葵1-26-8	052-979-6921	http://www.idec-inc.co.jp/
国際航業(株)	名古屋市西区上名古屋3-14-19(アーバンネット上名古屋ビル)	052-528-5312	http://www.earthon.co.jp/
国土防災技術(株)	名古屋市中区栄2-3-16(白川第5ビル)	052-218-5771	http://www.jce.co.jp/
(株)三栄コンサルタント	岐阜市水海道4-22-12	058-246-2558	http://www.sanei-consul.co.jp/
サンコーコンサルタント(株)	名古屋市中村区椿町21-2(第2太閤ビル)	052-452-1651	http://www.suncoh.co.jp/
(株)三進	岐阜県大垣市二葉町7-12	0584-73-3969	http://www.sansinn.co.jp/
(株)三祐コンサルタンツ	名古屋市東区代官町35-16	052-933-7801	http://sanyu.tcp.jp/
(株)三洋開発	三重県津市津興275	059-225-3766	
ジェイアール東海コンサルタンツ(株)	名古屋市中村区名駅5-33-10(アクアタウン納屋橋)	052-746-7108	http://www.jrcc.co.jp/
静岡コンサルタント(株)	静岡県三島市多呂128	055-977-8080	http://www.shizuoka-con.co.jp/
柴山コンサルタント(株)	名古屋市東区白壁1-69	052-961-0111	http://www.shibayama-consul.co.jp/
(株)新日	名古屋市中川区山王1-8-28(新日グリーンハイツ)	052-331-5356	http://www.shinnichi.co.jp/
杉山コンサルタンツ(株)	三重県津市久居新町680-4	059-255-1500	http://www.sugiyama-inc.co.jp/
セントラルコンサルタント(株)	名古屋市中区栄2-11-7(伏見大島ビル)	052-223-0380	http://www.central-con.co.jp/
全日本コンサルタント(株)	三重県四日市市鶴の森1-16-11	059-352-1052	http://www.zennippon-c.co.jp/
(株)創建	名古屋市熱田区新尾頭1-10-1	052-682-3848	http://www.soken.co.jp/

平成23年5月20日現在（91社）

会社名	所在地	電話番号	URL
(株)総合技術コンサルタント	名古屋市中区丸の内3-20-3(第47KTビル10F)	052-959-5777	http://www.sogo-eng.co.jp/
大同コンサルタンツ(株)	岐阜市中鷺2-11	058-273-7141	http://www.daidou-cons.co.jp/
大日コンサルタント(株)	岐阜市数田南3-1-21	058-271-2501	http://www.dainichi-consul.com/
大日本コンサルタント(株)	名古屋市西区菊井2-19-11(大興クレアシオン3F)	052-581-8993	http://www.ne-con.co.jp/
(株)ダイヤコンサルタント	名古屋市熱田区金山町1-6-12	052-681-6711	http://www.diaconsult.co.jp/
(株)拓工	名古屋市熱田区桜田町15-22	052-883-2711	http://www.c-takko.co.jp/
玉野総合コンサルタント(株)	名古屋市東区東桜2-17-14(新栄町ビル)	052-979-9111	http://www.tamano.co.jp/
中央開発(株)	名古屋市中村区牛田通2-16	052-481-6261	http://www.ckcnet.co.jp/
中央コンサルタンツ(株)	名古屋市西区那古野2-11-23	052-551-2541	http://www.chuoh-c.co.jp/
中央復建コンサルタンツ(株)	名古屋市中区錦2-3-4(名古屋錦フロントタワー4F)	052-220-2920	http://www.cfk.co.jp/
(株)中部テック	名古屋市名東区社台3-48	052-771-1251	http://www.chubu-tech.co.jp/
中部復建(株)	名古屋市昭和区福江1-1805	052-882-6611	http://www.chubu-fk.co.jp/
(株)長大	名古屋市中村区名駅南1-18-24(マイビルディング4F)	052-586-0700	http://www.chodai.co.jp/
(株)千代田コンサルタント	名古屋市中村区名駅南1-18-11	052-565-1401	http://www.chiyoda-ec.co.jp/
(株)帝国建設コンサルタント	岐阜市青柳町2-10	058-251-2177	http://www.teikoku-eng.co.jp/
(株)東京建設コンサルタント	名古屋市中区丸の内2-20-25(丸の内STビル)	052-222-2771	http://www.tokencon.co.jp/
(株)東日	静岡県沼津市大岡2240-3	055-921-8053	http://www.tohniche-net.co.jp/
(株)トニーチコンサルタント	名古屋市中区栄4-6-15(フォーティーンヒルズセンタービル)	052-262-4535	http://www.tonichi-c.co.jp/
東洋技研コンサルタント(株)	名古屋市中区錦1-6-10(スズワンビル6F)	052-221-6979	http://www.toyogiken-ccci.co.jp/
中日本建設コンサルタント(株)	名古屋市中区錦1-8-6(ストークビル名古屋)	052-232-6032	http://www.nakanihon.co.jp/
(株)浪速技研コンサルタント	豊田市野見山町1-104-1	0565-41-4655	http://www.naniwa-giken.co.jp/
南海カツマ(株)	三重県津市上浜町5-64-6	059-226-4854	http://www.nankai-katsuma.co.jp/
(株)日建設計シビル	名古屋市中区栄4-15-32(日建住生ビル)	052-261-0815	http://www.nikken-civil.co.jp/
日本工営(株)	名古屋市東区東桜2-17-14(新栄町ビル)	052-559-7300	http://www.n-koei.co.jp/
日本交通技術(株)	名古屋市中村区椿町14-13(ウエストポイント1413)	052-451-9111	http://www.jtc-con.co.jp/
日本振興(株)	名古屋市中村区名駅5-38-5(ウインビル4F)	052-562-1191	http://www.nihon-shinko.com/
(株)日本水工コンサルタント	名古屋市中村区竹橋町5-10(オイセタウンビル7F)	052-451-2391	http://www.nissuiko.co.jp/
(株)ニュージェック	名古屋市中村区名駅5-27-13(名駅錦橋ビル4F)	052-541-8251	http://www.newjec.co.jp/
(株)ハイウェイ・エンジニアリング	名古屋市中区栄1-7-33(サカエセンタービル2F)	052-232-1891	
パシフィックコンサルタンツ(株)	名古屋市中区牛島町2-5(トミタビル)	052-589-3111	http://www.pacific.co.jp/
(株)パスコ	名古屋市中区錦2-2-13(名古屋センタービル10F)	052-239-5140	http://www.pasco.co.jp/
藤コンサル(株)	名古屋市西区上名古屋3-12-5	052-522-7701	http://www.fuji-con.co.jp/
(株)フジヤマ	静岡県浜松市中区元城町216-19	053-454-5892	http://www.con-fujiyama.com/
(株)復建エンジニアリング	名古屋市中区栄2-5-13(アイ・エスビル7F)	052-203-0651	http://www.fke.co.jp/index.htm
復建調査設計(株)	名古屋市東区葵2-12-1(ナカノビル4F)	052-931-5222	http://www.fukken.co.jp/
(株)間瀬コンサルタント	名古屋市中村区名駅5-30-4(名駅KDビル4F)	052-414-6020	http://www.masecon.co.jp/
丸栄調査設計(株)	三重県松阪市船江町1528-2	0598-51-3786	
三井共同建設コンサルタント(株)	名古屋市千種区今池5-24-32(今池ゼネラルビル5F)	052-735-4660	http://www.mccnet.co.jp/
明治コンサルタント(株)	名古屋市名東区藤森2-273	052-772-9931	
(株)メイホーエンジニアリング	岐阜県大垣市林町2-61-2	0584-74-7918	http://www.meihoeng.co.jp/
(株)名邦テクノ	名古屋市南区大磯通6-9-2	052-823-7111	http://www.meiho-techno.co.jp/
八千代エンジニアリング(株)	名古屋市中区錦3-10-33(錦SISビル8F)	052-232-2301	http://www.yachiyo-eng.co.jp/
(株)ユニオン	岐阜市西河渡2-57	058-253-3111	http://www.theunion.co.jp/
(株)若鈴	三重県津市広明町345-1(若鈴ビル)	059-226-4101	http://www.wakasuzu.co.jp/index1.html
若鈴コンサルタンツ(株)	名古屋市中区歌里町349	052-501-1361	http://www.wakasuzuc.co.jp/



平成24年度定期総会を4月25日(水)KKRホテル名古屋で開催しました。

当日はご多忙中にもかかわらず、会員74社の方々にご出席を賜り誠に有難うございました。議事は、「(一社)建設コンサルタンツ協会中部支部細則案」、「平成23年度事業報告及び収支決算」、「平成24年度事業活動方針案」及び「役員改選候補推薦案」について審議が進められ、審議の結果、賛成多数で原案通り承認可決されました。支部の活動報告では、副支部長及び担当部会長から主な社会貢献活動への取組みとして「建設コンサルタントフェア2011 in 中部」開催、「打ち水大作戦2011 in 名古屋」への参画等及び主な対外活動への取組みとして「要望と提案」意見交換会の実施、品質向上推進への取組み結果及び技術研修への講師派遣等が映像で詳細に報告されました。その後、役員改選で選出されました新旧役員の挨拶があり、盛会のうちに滞りなく終了しました。

今回役員に選出されました方々は、次のとおりです。

(敬称省略)

支 部 役 職 名	氏 名	会 社 名
支部長	田 部 井 伸 夫	玉 野 総 合 コ ン サ ル タ ン ト (株)
副支部長	後 藤 隆	大 日 コ ン サ ル タ ン ト (株)
副支部長	田 畠 謙 一	大 日 本 コ ン サ ル タ ン ト (株)
副支部長	上 田 直 和	中 日 本 建 設 コ ン サ ル タ ン ト (株)
支部役員(本部常任委員)	古 澤 邦 彦	玉 野 総 合 コ ン サ ル タ ン ト (株)
支部役員(総務部会長)	市 橋 忠 幸	中 央 コ ン サ ル タ ン ツ (株)
支部役員(総務副部会長)	大 野 浩 伸	(株) 長 大
支部役員(対外活動部会長)	西 井 幸 春	(株) 東 京 建 設 コ ン サ ル タ ン ト
支部役員(対外活動副部会長)	都 出 英 夫	八 千 代 エ ン ジ ニ ヤ リ ン グ (株)
支部役員(情報部会長)	大 住 勉	パ シ フ ィ ッ ク コ ン サ ル タ ン ツ (株)
支部役員(技術部会長)	友 永 則 雄	(株) 建 設 技 術 研 究 所
支部役員(技術副部会長)	堤 安 希 佳	(株) オ リ エ ン タ ル コ ン サ ル タ ン ツ
支部役員(技術副部会長)	大 場 邦 弘	中 部 復 建 (株)
支部役員(事務局長)	平 畑 三 夫	中 部 支 部 事 務 局
監査役	青 木 拓 生	(株) 拓 工
監査役	富 士 原 優 次	い で あ (株)

●平成24年度 支部年間スケジュール(予定)

平成24年度における支部行事の主な予定は次のとおりです。

4月25日	定期総会及び講演会の開催	10月20日	建設コンサルタントフェア
7月10日	マネージメントセミナー	10月23日	品質セミナー
7月30日	「要望と提案」意見交換会	11月11日	RCCM資格試験の実施
8月18日	打ち水大作戦名古屋へ参加	11月13日	独占禁止法遵守講習会開催
8月31日	災害時対応演習	11月中旬	河川技術セミナーの開催
10月 3日	業務技術発表会	11月20日	RCCM更新講習会
10月15日	RCCM更新講習会		

なお、この他にも各委員会主催の講演会、見学会等が開催される予定になっております。

●RCCM資格取得試験実施は協会活動の重要な業務であり、昨年度は資格要件が大幅に緩和されたため大勢の方々が受験をされました。

今年度のスケジュールとしては、次のとおりです。

6月18日(月)～7月20日(金)	RCCM受験申込書販売
7月 1日(日)～7月31日(火)	RCCM受験申込書受付
10月15日(月)予定	RCCM受験票の送付
11月11日(日)	試験実施
平成25年3月初旬	合格発表

●中部支部事務局移転のお知らせ

中部支部事務局は、平成24年3月28日に「森ビル」から「アレックスビル」へ移転をしました。(地下鉄丸ノ内駅 8番出口 徒歩5分)

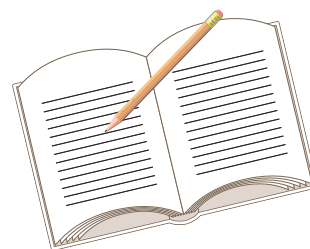
新 住 所：名古屋市中区丸の内一丁目4番12号 アレックスビル 3F

電話番号：(052)265-5738

FAX番号：(052)265-5739

9. 編集後記

編集後記



「図夢in中部」は今回の発刊により、おかげさまで第29号となりました。

今回の特集は「NPO知多から世界へ」と題し、中部国際空港の開港にあたり、有志の方々が企画した講演会からその後、NPOを発足し活動されている磯貝氏に執筆をお願いいたしました。

活動を通じて中部での国際的な玄関である中部国際空港を、知多から世界に発信する基地として活用し、地域と共生しながら日本を代表する国際空港へと発展してほしいとの願いが込められています。我々コンサルタントも中部国際空港を起点に地域が今まで以上に国際的に競争していくため、社会資本をどのように整備し運用していくか、知恵を出し合い、日本の国際化に貢献していく必要があると感じました。

編集委員一同これからも、より良い「図夢in中部」を発刊していきたいと思っておりますので、みなさまのご意見、ご感想をお聞かせください。よろしくお願いいたします。

最後に、発刊に際しましてご執筆・ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

(A.C)

編集【対外活動部会編集委員会】

部 会 長 西井 幸春 (株)東京建設コンサルタント
副 部 会 長 都出 英夫 八千代エンジニアリング(株)
編集委員長 中村 卓生 (株)トーニチコンサルタント
編集副委員長 平田 真規 中央コンサルタンツ(株)
委 員 児玉 直人 ジェイアール東海コンサルタンツ(株)
委 員 早川 和夫 (株)帝国建設コンサルタント

委 員 長間 哲 (株)近 代 設 計
委 員 伊藤 博之 (株)ニ ュ ー ジ ョ ッ ク
委 員 瀧 高雄 (株)葵 エンジニアリング
委 員 片桐 泰光 中日本建設コンサルタント(株)
委 員 瀧瀬 正彦 (株)ア イ エ ス シ イ
委 員 太刀掛泰清 セントラルコンサルタント(株)

次号の投稿内容および投稿先

編集委員会では次号に掲載する投稿を読者の皆様から募集しています。投稿先・方法などは次のとおりです。

■投稿内容

ジャンル・テーマは自由

※採用の場合は薄謝進呈いたします。

■投稿方法

- ・メール(CCAI-NET)
- ・フロッピーディスク(一太郎・Word)
- ・FAX ・郵送

■投稿先

(一社)建設コンサルタンツ協会 中部支部 編集委員会
名古屋市中区丸の内一丁目4番12号(アレックスビル3F)
TEL.052-265-5738 FAX.052-265-5739
URL <http://www.ccainet.org/>
E-mail:info@ccainet.org

■お問い合わせ先

同 上



コンサルタント川柳

題目は特に決めておりません。

図夢in中部を読んだ感想や普段思っていることなど、五七五にまとめて応募してください。
なお、コメントには句への思いや意見要望など記入してください。

ご応募は一般社団法人建設コンサルタンツ協会
中部支部ホームページ
<http://www.ccainet.org/>

のコンサルタント川柳募集までどしどしお寄せください。



読者アンケート

読者アンケートにご協力をお願いします。
あなたのご意見が「図夢in中部」を作ります。
特に、本誌や建設コンサルタント支部活動への要望や提案など、個性的な意見を沢山お待ちしております。
ご意見は一般社団法人建設コンサルタンツ協会中部支部ホームページの読者アンケートまでどしどしお寄せください。

<http://www.ccainet.org/>

一般社団法人建設コンサルタンツ協会 倫理綱領

会員は、社会のニーズに応じて、技術に関する知識と経験を駆使し、社会の健全な発展に寄与する建設コンサルタントの使命と職責を自覚し、信義に基づき誠実に職務の遂行に努め、職業上の地位及び社会的評価の向上を図らなければならない。そのため次の事項を遵守するものとする。

1. 品位の保持

会員は、常に建設コンサルタントとしての品位の保持に努めるとともに、会員相互の名誉を重んじなければならない。

2. 専門技術の権威保持

会員は、常に幅広い知識の吸収と技術の向上に努め、依頼者の良き技術的パートナーとして、技術的確信のもとに業務にあたらなければならない。

3. 中立・独立性の堅持

会員は、建設コンサルタントを専業とし、建設業者又は建設業に関係ある製造業者等と、建設コンサルタントとしての中立・独立性を害するような利害関係をもってはならない。また、依頼者の支払う報酬以外いかなる利益をも受けてはならない。

4. 秘密の保持

会員は、依頼者の利益を擁護する立場を堅持するため、業務上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。

5. 公正かつ自由な競争の維持

会員は、公正かつ自由な競争の維持に努めなければならない。

平成7年5月16日総会承認

